

I 2025年度 事業概要

定時社員総会報告

2025年度の定時社員総会は、正会員が一堂に会する形式ではなく、会長および理事・監事の出席者による開催と、議決権行使書の提出をもって、審議事項の決議を行いました。

6月下旬に事務局より、正会員3名に対し、2024年度年次報告書を含む総会資料一式および議決権行使書を送付し、正会員には、各審議事項に対する賛否を記載のうえ、議決権行使書を提出いただきました。

社員総会に先立ち、2025年7月11日（金）に、「社員総会議事事項に関する説明会」をインターネットを利用した遠隔会議にて開催し、審議事項および報告事項についての説明と質疑応答を実施しました。

その後、2025年7月28日（月）に開催した定時社員総会において、会長および理事・監事が提出された議決権行使書を確認し、全ての審議事項について決議を行いました。

開催日時：2025年7月28日（月曜日）午前10時00分から午前10時30分

開催場所：東京都千代田区神田須田町1-5 翔和須田町ビル2階 法人事務所

出席社員数：総社員数633名、総社員の議決権数633個

出席社員数500名（議決権行使書による）、出席社員の議決権数500個

定款第18条により、正会員633名中、議決権行使書提出者500名をもって総会が成立することが報告された。

審議事項

1. 第1号議案 2024年度事業活動報告及び決算承認・監査報告に関する件

第1号議案は500個の賛成を得て承認された。

2. 第2号議案 理事選任に関する件

第2号議案は500個の賛成を得て原案通り川本利恵子氏を選任することが承認された。

報告事項

1. 2025年度事業活動計画及び予算に関する件

(1) 重点事業について

2025年度重点事業について説明があった。本協会は50周年を目前に控えるも、私立看護系大学を取り巻く状況は依然として厳しいといえる。少子化や理系女子増加を背景とした看護系大学の入学者減少の懸念もあり、魅力発信の継続的な検討が必要である。2025年度の重点事業は、教職員研修の充実、地区ごとの情報交換と連携促進、そして組織・活動の将来的なあり方の検討を掲げており、研修や支援事業の成果も評価しながら、私立看護系大学の発展に向けた取り組みを推進していく。

(2) 2025年度事業活動計画

(3) 2025年度予算

2. 規程の整備に関する件

2024年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会 決算書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

1. 一般会計収支決算書

(収入)

(単位：円)

科目	2024年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
会費	62,900,000	62,900,000	0	100%	会費@300,000×209校 入会金@200,000×1校
銀行利息	1,000	38,174	△37,174	3817%	預金利息金利引き上げのため
預り金	4,000,000	3,402,705	597,295	85%	源泉所得税、住民税、社会保険料
雑収入	0	158,840	△158,840	—	研究助成金の返金
(収入小計)	66,901,000	66,499,719	401,281	99%	
前年度繰越金	72,667,265	72,667,265	0	100%	
合計	139,568,265	139,166,984	401,281	99%	

(支出)

科目	2024年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
事業費	85,686,000	73,101,308	12,584,692	85%	
大学教育委員会	1,820,000	1,487,436	332,564	81%	
研究活動委員会	217,000	114,754	102,246	52%	委員会のWeb開催による旅費の削減
研究助成事業	11,990,000	10,053,846	1,936,154	83%	
国際交流委員会	363,000	334,974	28,026	92%	
国際交流助成事業	2,058,000	2,036,665	21,335	98%	
大学運営・経営委員会	1,085,000	873,556	211,444	80%	
渉外委員会	135,000	112,599	22,401	83%	
広報委員会	4,056,000	3,896,767	159,233	96%	
将来構想検討委員会	233,000	1,718	231,282	1%	他委員会と同時開催による旅費の削減
地区活動委員会	500,000	314,082	185,918	62%	地区会議会場借料の削減
地区活動助成事業	6,099,000	5,849,915	249,085	95%	
50周年記念事業準備委員会	100,000	0	100,000	0%	他委員会と同時開催による旅費の削減
人件費	11,000,000	9,672,107	1,327,893	87%	事務局員費等
消耗品費	2,000,000	1,868,720	131,280	93%	会長表彰記念品代等
旅費交通費	1,500,000	1,451,541	48,459	96%	理事会等旅費等
通信費	500,000	453,877	46,123	90%	振込手数料、切手等
印刷費	150,000	149,578	422	99%	封筒印刷等
賃借料	3,500,000	3,380,808	119,192	96%	事務所賃料等
会議費	700,000	517,893	182,107	73%	総会、理事会のWeb開催による削減
業務委託費	1,600,000	1,403,372	196,628	87%	職員採用等
看護学教育推進事業	21,080,000	14,127,500	6,952,500	67%	助成金の未申請による
看護の魅力発信事業	15,000,000	14,999,600	400	99%	
管理費	17,170,000	15,660,399	1,509,601	91%	
人件費	10,000,000	9,096,335	903,665	90%	事務局人件費
消耗品費	800,000	768,510	31,490	96%	文具、会計ソフト等
光熱水費	550,000	442,010	107,990	80%	電気水道代
旅費交通費	80,000	73,250	6,750	91%	監査、選挙管理委員会等
通信費	750,000	606,490	143,510	80%	切手、郵送費、電話、振込手数料等
支払報酬	25,000	19,316	5,684	77%	メールサーバー代
印刷費	350,000	336,264	13,736	96%	コピー機利用料 会長交代挨拶状等
賃借料	2,900,000	2,784,540	115,460	96%	事務所賃料、リース料等
会議費	30,000	23,755	6,245	79%	監査、選挙管理委員会等
業務委託費	1,500,000	1,342,654	157,346	89%	司法書士、公認会計士業務委託契約料等
保険料	85,000	84,075	925	98%	家賃保証、火災保険
租税公課	100,000	83,200	16,800	83%	法人住民税、収入印紙等
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
維持管理特別会計繰入金	0	0	0	—	
退職給付引当繰入金	827,000	826,512	488	99%	
預り金	4,000,000	3,525,352	474,648	88%	源泉所得税、住民税、社会保険料
前期末未払金	945,583	945,583	0	100%	
期末未払金	△950,000	△15,806,930	14,856,930	1663%	看護の魅力発信事業等
予備費	5,000,000	500,000	4,500,000	10%	国際交流助成事業
(支出小計)	113,678,583	79,752,224	33,926,359	70%	
次年度繰越金	25,889,682	59,414,760	△33,525,078	229%	
合計	139,568,265	139,166,984	401,281	99%	

2. 特別会計収支決算書

(1) 2024年度将来事業特別会計

科目	2024年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
前年度繰越金	13,260,211	13,260,211	0	100%	
繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
利息収益	200	6,550	△6,350	3275%	預金利息金利引き上げのため
合計	14,260,411	14,266,761	△6,350	100%	

(2) 2024年度維持管理特別会計

科目	2024年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
前年度繰越金	11,094,044	11,094,044	0	100%	
繰入金	0	0	0	0%	
利息収益	16,000	15,698	302	98%	
合計	11,110,044	11,109,742	302	99%	

(3) 2024年度退職金引当特定資産

科目	2024年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
前年度繰越金	3,534,423	3,534,423	0	100%	
繰入金	827,000	826,512	488	99%	
利息収益	100	1,981	△1,881	1981%	預金利息金利引き上げのため
合計	4,361,523	4,362,916	△1,393	100%	

2025年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

1. 一般会計予算

(収入)

(単位：円)

科目	2025年度予算	2024年度予算	差異	備考
会費	63,700,000	62,900,000	800,000	会費@ 300,000 × 211校 入会金@ 200,000 × 2校
銀行利息	65,000	1,000	64,000	普通預金
預り金	4,000,000	4,000,000	0	源泉所得税、住民税、社会保険料
雑収入	0	0	0	
(収入小計)	67,765,000	66,901,000	864,000	
前年度繰越金	59,414,760	72,667,274	△ 13,252,514	
合計	127,179,760	139,568,274	△ 12,388,514	

(支出)

科目	2025年度予算	2024年度予算	差異	備考(使途・増減の理由など)
事業費	52,617,000	85,686,000	△ 33,069,000	
大学教育委員会	1,768,000	1,820,000	△ 52,000	
研究活動委員会	203,000	217,000	△ 14,000	
研究助成事業	11,891,000	11,990,000	△ 99,000	
国際交流委員会	451,000	363,000	88,000	
国際交流助成事業	4,066,000	2,058,000	2,008,000	採択数を増やすための増額
大学運営・経営委員会	1,638,000	1,085,000	553,000	短大調査委託のための増額
渉外委員会	250,000	135,000	115,000	
広報委員会	4,056,000	4,056,000	0	
将来構想検討委員会	126,000	233,000	△ 107,000	
地区活動委員会	324,000	500,000	△ 176,000	
地区活動助成事業	6,064,000	6,099,000	△ 35,000	
50周年記念事業準備委員会	100,000	100,000	0	
人件費	11,900,000	11,000,000	900,000	
消耗品費	2,000,000	2,000,000	0	会長表彰記念品代 等
旅費	1,800,000	1,500,000	300,000	
通信費	600,000	500,000	100,000	振込手数料、切手 等
印刷費	180,000	150,000	30,000	封筒印刷 等
賃借料	3,400,000	3,500,000	△ 100,000	事務所賃料 等
会議費	800,000	700,000	100,000	総会 等
業務委託費	1,000,000	1,600,000	△ 600,000	
看護学教育推進事業	0	21,080,000	△ 21,080,000	2024年度特別事業
看護の魅力発信事業	0	15,000,000	△ 15,000,000	2024年度特別事業
管理費	17,155,000	17,170,000	△ 15,000	
人件費	10,600,000	10,000,000	600,000	
福利厚生費	60,000	—	—	事務局職員健康診断料 等
消耗品費	800,000	800,000	0	文具、会計ソフト 等
光熱水費	550,000	550,000	0	電気水道代
旅費	50,000	80,000	△ 30,000	監査、選挙管理委員会 等
通信費	750,000	750,000	0	切手、郵送費、電話、振込手数料 等
支払報酬費	25,000	25,000	0	メールサーバー代
印刷費	250,000	350,000	△ 100,000	コピー機利用料 等
賃借料	2,900,000	2,900,000	0	事務所賃料、リース料 等
会議費	30,000	30,000	0	監査、選挙管理委員会 等
業務委託費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	司法書士、会計士委託契約料 等
保険料	50,000	85,000	△ 35,000	家賃保証
租税公課	90,000	100,000	△ 10,000	法人住民税、収入印紙 等
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
維持管理特別会計繰入金	0	0	0	
退職金引当金繰入額	901,000	827,000	74,000	
預り金	4,000,000	4,000,000	0	源泉所得税、住民税、社会保険料
前期末未払金	15,806,930	945,583	14,861,347	看護の魅力発信事業
期末未払金	△ 950,000	△ 950,000	0	
予備費	5,000,000	5,000,000	0	
(支出小計)	95,529,930	113,678,583	△ 18,148,653	
次年度繰越金	31,649,830	25,889,691	5,760,139	
合計	127,179,760	139,568,274	△ 12,388,514	

2. 特別会計(特定資産)予算

(1) 2025年度将来事業特別会計

科目	2025年度予算	2024年度予算	差異	備考
前年度繰越金	14,266,761	13,260,211	1,006,550	
繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
利息収益	12,000	200	11,800	
合計	15,278,761	14,260,411	1,018,350	

(2) 2025年度維持管理特別会計

科目	2025年度予算	2024年度予算	差異	備考
前年度繰越金	11,109,742	11,094,044	15,698	
繰入金	0	0	0	
利息収益	16,000	16,000	0	
合計	11,125,742	11,110,044	15,698	

(3) 2025年度退職金引当特定資産

科目	2025年度予算	2024年度予算	差異	備考
前年度繰越金	4,362,916	3,534,423	828,493	
繰入金	901,000	827,000	74,000	
利息収益	4,000	100	3,900	
合計	5,267,916	4,361,523	906,393	

理事会報告

第1回定例理事会

【開催日時】2025年6月9日（月曜日）9時00分から10時10分

【審議事項】

1. 理事交代について

関東（東京以外）地区選出の井上智子理事（国際医療福祉大学成田看護学部）の辞任に伴い、川本利恵子氏（湘南医療大学）を理事候補者として社員総会に推薦することが承認された。

2. 2025年度社員総会について

2025年度定時社員総会の運用方法、2025年度定時社員総会議事次第（案）が承認された。

3. 2024年度事業活動報告について

大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会、地区活動委員会、2024年度特別事業の活動報告を行った。

4. 2024年度決算（案）について

櫻井しのぶ理事より説明があり承認された。

5. 監事監査について

守田美奈子監事より説明があり承認された。

6. 2025年度事業活動計画（案）について

大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会、地区活動委員会より2025年度事業活動計画案の説明があり承認された。

7. 2025年度予算（案）について

櫻井しのぶ理事より説明があった。

8. 2025年度新規会員校について

植草学園大学看護学部看護学科、別府大学看護学部看護学科の2校の入会が承認された。

【報告事項】

1. 内部監査について

櫻井しのぶ理事より報告があった。

2. 若手研究者研究助成の研究期間の延長について

小松万喜子理事より、2023年度若手研究者研究助成採択者より研究期間延長の届出があり、委員会において研究期間延長後の見通し等について検討を行い、研究期間の延長を認めることとしたとの説明があった。

3. 2024年度特別事業報告

株式会社進研アドと協力し動画を制作・配信し、特設Webページでは「看護の多様な可能性」を公開したと議長より報告があった。また、TikTok・Instagram・YouTubeで、看護の多様な可能性を示す動画広告を配信した。更に、高校の探究学習へのアプローチとして、副教材に看護と社会課題に関する記事を掲載し、全国2,525校・18,550冊を配布した。高校生の自由記述アンケートからは、看護とSDGsとの関わりや、病院以外の多様な職域（国際支援、災害支援、AI

活用等)への関心の声が多く寄せられた。

第2回定例理事会

【開催日時】2025年7月28日(月曜日)11時00分から11時50分

【審議事項】

1. 川本利恵子理事の担当する委員会

本理事会から川本利恵子氏が理事として就任した。議長より担当の委員会は大学運営・経営委員会として推薦があり承認された。

2. 2025年度研究助成事業採択者の決定

亀井智子研究活動委員会委員長より応募者数と採択者数について説明があった。選考の経緯について説明があり、看護学研究奨励賞19名、若手研究者研究助成15名、国際学会発表助成10名を採択することが承認された。

3. 選挙管理委員会について

今回の役員候補者選出選挙から電子投票を導入することに伴い、選挙管理委員会の立ち上げを例年より前倒しする必要が生じた。選挙管理委員会の選任について執行部に一任する提案があり承認された。

【報告事項】

1. 事業活動報告

大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会、地区活動委員会の事業活動報告があった。

【その他】

大学教育委員会の太田勝正理事より、教員採用時の追加情報に関するアンケート調査について協力の依頼があった。

第3回定例理事会

【開催日時】2025年12月1日(月曜日)10時00分から11時50分

【審議事項】

1. 2026年度役員候補者選出選挙理事定数について

各選挙区の理事定数を確定した。

2. 2026年度助成事業について

(1) 研究助成について(研究活動委員会)

2026年度募集要項及び申請書類について検討した。2026年度より研究助成の選考をWeb化することについて、保守管理にかかる経費はかからないことを確認し承認された。

(2) 新規に国際交流活動を行うための助成について(国際交流委員会)

「視察調査等」を助成の対象に含めるかについて、審査項目には活動の継続可能性も重要な基準として設けており、これまでの採択校の活動報告からも、単なる調査旅行にとどまらない活動内容であることを確認し、募集要項に記載していた「視察調査等に関する」項目は削除することとした。採択件数は、応募数が増加している状況を踏まえ、前年度より1件増の5件と

することとした。

(3) 地区活動プロジェクトについて（地区活動委員会）

過去に採択された内容との連続性やブラッシュアップが認められる場合、連続2年まで応募は可とする方針とした。

3. 日本私立看護系大学協会戦略分析について（将来構想検討委員会）

各委員会からのヒアリングを基にSWOT分析した結果から今後、各委員会において具体的な活動へ展開し進めることとなった。

4. 要望書について（渉外委員会）

私立大学が看護系大学の全体の約7割を占めており、看護人材養成の中核的存在としての役割を担っている。教育機関と実習現場の緊密な連携や人材育成の推進は必要不可欠であるが、現状では指導体制が安定していないという課題が挙げられ、実習の受け入れ施設に対して人員配置のインセンティブが求められている状況も説明があった。

5. 規程等の改正について

個人情報保護に関して、専任職員就業規則、有期雇用職員就業規則、育児・介護休業等に関する規程、慶弔見舞金規程、公益通報に関する規程は原案のとおり承認された。

6. 事務局職員の主任昇進について

本協会事務局の専任職員の主任昇進が承認された。

【報告事項】

1. 各委員会事業活動報告及び会計内訳

各委員会より前回理事会（2025年7月28日）以降に進展した内容を中心に報告があった。

2. 2025年度中期決算について

収入、現金、預金の利息状況、預り金・事業費・管理費の執行状況などについて、総じて適正な執行状況であると報告があった。

3. 2026年度役員候補者選出選挙について

選挙管理委員会・立会人の任命とスケジュールを確認し、選挙管理委員会において投票データのセキュリティと開票手順の明記を今後検討することとした。

【その他】

技能五輪国際大会の情報提供があった。

第4回定例理事会

【開催日時】 2026年3月17日（月曜日）12時00分から13時30分

【審議事項】

1. 2026年度事業活動計画と委員会予算について

事業活動計画書と予算書に基づき、大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会、地区活動委員会、50周年記念事業実行委員会の事業活動計画案と予算案の説明があり骨子が承認された。

2. 2026年度予算案について

一般会計の事業費は現時点で各委員会の事業活動計画に沿った予算が計上してあり、50周年記念事業については、これまで積み立ててきた特別会計の一部を取り崩し一般会計に繰り入れて実施することとして骨子が承認された。

3. 2026年度社員総会について

例年ライブ配信している社員総会事前説明会は、2026年度は50周年記念事業の当日と重なり、運営上煩雑になるため、事前に録画して協会ホームページの会員専用ページで配信し、質問については一定期間メールで受け付けることとした。

4. 2026年度重点事業について

2026年度重点事業について承認された。

5. 2026年度研究助成選考委員について

2026年度研究助成選考委員が承認された。

6. 日本私立看護系大学協会戦略分析ドキュメントについて

戦略オプションの修正が承認された。

7. 50周年記念事業について

記念式典、講演会、シンポジウム、祝賀会のプログラムや運用方法、記念誌の記事構成案が承認された。

【報告事項】

1. 2025年度事業活動報告と予算執行状況について

各委員会より前回理事会（2025年12月1日）以降に進展した内容を中心に報告があった。

2. 2025年度決算について（2月28日時点）

収入と事業費・管理費の執行状況、特別会計について説明があり、総じて適正な執行状況であると報告があった。

【その他】

1. 2026年度私立看護系大学新設校について紹介があった。

2. 2025年度会長表彰について、会員校の卒業生201名へ表彰状と記念品を贈呈した。

会長表彰

完成年度を迎えている会員校からの推薦に基づき、卒業生に表彰状および記念品を贈呈しました
(対象校 204 校のうち 201 校より推薦があり、推薦率は 98.5%でした)。

(表彰状)



(記念品)



Ⅱ 2025年度 事業活動報告

1. 大学教育委員会

1. 趣旨

- ①教育内容（カリキュラム）、方法、評価の調査研究
- ②教員組織、教員の質・能力向上、教育能力・施設設備の調査研究
- ③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○安酸 史子（日本赤十字北海道看護大学）

江川 隆子（関西看護医療大学）

太田 勝正（東都大学）

小原 泉（自治医科大学）

（委員）

前田 樹海（東京有明医療大学）

3. 2025 年度事業活動報告

(1) 研修会の開催

1) 新任教員向け研修会「大学教育とは」

目的：私立大学の教職員として基本的知っておかなくてはならない考え方や、教育課程、私立大学法改革に至る経緯や置かれている現状について学ぶ

講師：島袋 香子 氏（北里大学 名誉教授）

日時：2025 年 8 月 2 日（土）10 時 00 分～14 時 20 分

開催方法：（当日）会場開催と Zoom ウェビナーを用いたライブ配信（講演のみ）
（後日）オンデマンド配信（講演のみ）

プログラム：

（午前の部）

10：00～10：10 開会挨拶

10：10～11：10 講演「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋 香子 氏（北里大学 名誉教授）

11：10～11：20 質疑応答

11：20～12：20 休憩

（午後の部）※午後の部は会場開催のみ

12：20～13：20 グループワーク

13：20～14：15 発表・質疑応答

14：15～14：20 閉会挨拶

当日参加者：会場参加 17 名、Zoom 参加 66 名、グループワーク参加 16 名

動画配信期間：2025 年 8 月 8 日～11 月 8 日

動画視聴回数：476回

講演概要

「私立看護系大学を理解する」

鳥袋 香子（北里大学 名誉教授）



鳥袋香子先生によるご講演「私立看護系大学を理解する」では、学校法人に関する主な法律や私学における教員の責務と役割について解説がなされた。教育基本法や学校教育法に加えて、私立大学法や私立学校振興助成法など学校法人の組織・会計・補助金等に関する法律についてポイントとなる事項が説明された。私立学校法の目的に「自主性を重んじ、公共性を高める」と記されているのは、大学の理念・特性を活かして、誰に対しても開かれている必要性を意味しているとの説明があり、私立大学のあり方について参加者の理解が深まったと思われた。

令和7年度施行の私立学校法の改正内容や、私立学校振興助成法に関しても解説があった。運営の透明性確保や運営基盤の強化、「時代と社会の変化を乗り越えるレジリエントな私立大学等への転換支援パッケージ」の趣旨や内容等が説明され、私学に求められる役割や運営に関して、参加者の視野が広がったと思われた。教育の質の向上については、3P（DP、CP、AP）の実質化から内部質保証システムを機能させ、学習成果の把握・可視化していく意義が説明された。

参加者アンケートには「私立大学を取り巻く環境を多面的に考える機会となった。」「大学なので研究を第一に考えていたが、教育や運営の視点を忘れずに研鑽していきたいと感じた。」等のコメントがあり、アンケート回答者全員が「大変満足」あるいは「満足」と回答していた。

午後のグループワークでは、4つのグループに分かれて、鳥袋先生のご講演内容から学んだこと、気づいたことなどを自由に意見交換していただき、続いて各グループからの発表と質疑応答が行われた。学位取得を含めた大学教員のキャリア形成、研究時間の確保や働き方、学生との向き合い方や教育の質の確保、大学教育の目標、学生確保につながる看護職の魅力発信などについて活発に話し合われたことが報告された。参加者からのアンケートでは、「他大学との情報交換ができ、とても有意義な時間だった。」「グループワークに参加できてよかった。教育、研究に関して沢山の工夫や取り組みを知ることができた。」「共通の悩みがありつつも大学ごとの対応を色々と検討されていて、励みになった」など、満足度の高いグループワークであったことが記されていた。

全体を通して、新任教員を対象とし大学教育とは何かを学ぶ本研修は、大変有意義であることを参加者の反応から改めて認識した。今後も、私立看護系大学の新任教員を支援する機会を継続的に提供していきたいと考える。

報告者：小原 泉

2) 喫緊の課題についての研修会「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」

目的：特別な支援を要する発達障害傾向の看護学生の特徴や具体的な教育支援の実際を学び、教職員に必要な能力を向上させるための示唆を得る。

講師：西村 優紀美 氏（元富山大学 保健管理センター 准教授）

指定発言者：越村 章子 氏（株式会社 Cossy、当事者家族）

ファシリテーター：日高艶子（聖マリア学院大学）、小浜さつき（聖マリア学院大学）、北川明（順天堂大学）

日時：2026年3月1日（日）10時00分～14時30分

開催方法：（当日）会場開催と Zoom ウェビナーを用いたライブ配信（午前中のみ）

（後日）オンデマンド配信（午前中のみ）

プログラム：

（午前の部）

10：00～10：05 開会挨拶

10：05～11：05 講演

11：05～11：20 指定発言

11：20～11：40 質疑応答

11：40～12：40 休憩

（午後の部）※午後の部は会場開催のみ

12：40～14：00 事例検討会

14：00～14：25 発表・質疑応答

14：25～14：30 閉会挨拶

当日参加者：会場参加6名、Zoom参加59名、グループワーク参加6名

動画配信期間：2026年3月6日～6月6日

動画視聴回数：424回（5月15日時点）

講演概要

「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」

西村 優紀美（元富山大学保健管理センター 准教授）



越村 章子（株式会社 Cossy、当事者家族）



合理的配慮が義務化された状況の中、各大学における喫緊の課題として特別な支援を要する発達障害傾向の看護学生の特徴や具体的な教育支援を学び、教職員に必要な能力を向上させるための示唆を得ることを目的とし、昨年に引き続きハイブリッドによる研修会を開催した。会場参加6名、Zoom参加59名であった。午前中の西村優紀美氏（元富山大学 保健管理センター准教授）による講演「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」では、1. 障害学生支援における基本的考え方、2. 教育の本質・評価基準について、3. 発達障害の特性がある学生、4. 精神障害がある学生、5. 臨地実習への対応、6. 看護教育における障害学生支援について解説された。内容的には発達障害支援についての基本的な知識とともに、昨年より具体例がバージョンアップして解説された。例えば、合理的配慮についてのよくある間違いを、「教職員が独自の判断のみで配慮を検討するのは間違いである」「教職員が漠然とした安全上の問題を理由に配慮を否定するのは誤りである」「教職員が保護者のみと対話をして、障害学生とは対話をせず、障害学生の意向を尊重しないのは誤りである」など具体例を提示しながら分かりやすく解説された。次に今年是指定発言者として当事者家族である越村章子氏（株式会社 Cossy 代表取締役）に登壇していただいた。自閉スペクトラム症を伴う注意欠如多動症の診断を受けた息子さんが、発達障害の人の学習スタイルに合わせた TEACCH（基本の構造化）で支援を受けたことを親の目を通して語られた。息子さんは現在看護師として働いていることも紹介された。

午後の事例検討会では、ファシリテーターとして、日高艶子氏（聖マリア学院大学）、小浜さつき氏（聖マリア学院大学）、北川明氏（順天堂大学）に入っていただき、対面参加者6名が2グループに分かれて、事例検討会を行った。

アンケートでは、西村氏の講演について、よくある間違いと望ましい対応の両方を提示してもらい分かりやすかった等、昨年に引き続き高評価であった。越村氏の指定発言については、「教員に勇気と希望を与えてくださる内容でした。」「当事者（親）の実際の話が聞けて良かったです。」等高評価とともに、「家族の立場で行った支援や要望などをもっと知りたかった。」という意見もあった。

企画した立場からは、発達障害傾向のある学生への合理的配慮についての総論的な理解は浸透してきた感はあるが、アンケート結果からは現実場面での困り事はまだ多く、合理的配慮の実際や当事者（含む親）などの話へのニーズは高いことが窺えたことから、次年度も同様の研修を提供していきたいと考えた。

報告者：安酸 史子

(2) 教員応募者の質と能力にかかわる情報についてのアンケート調査

実施日：2025年8月4日から2025年9月5日

目的：現行の個人調書と業績調書に追加できる（追加は任意）自己申告表を検討する。

対象：日本私立看護系大学協会理事

方法：Google Forms によるオンライン調査（無記名）

主な調査内容：教員募集の際に応募者に一般的に求めている個人調書、業績調書以外に、第3の調書を求める場合、そこに含むべき項目案（8項目）についてその有用性、情報の信憑性、情報収集（そのような情報を求めること）の適切性についての自由回答

検討：現行の2文書（「個人調書」と「業績調書」）の運用を考え、教育上の問題や組織運営上の懸念（人間関係の問題など）を主たる内容とする第3の調書については追加せず、その代わりに、現行2文書のよりの確な運用、および一部で運用されている「推薦書」等について、その有用性を高める工夫を検討した。

(3) 委員会の開催

第1回大学教育委員会

日時：2026年2月2日（月）10時00分～11時15分

方法：Zoomを用いたWeb会議とメール審議

出席者：太田勝正、安酸史子（江川理事と小原理事はメール審議）

議題：

- 1) 教員採用時の追加情報に関する調査について
- 2) 研修会の振り返り
- 3) 2025年度事業活動報告について
- 4) 2026年度事業活動計画案について
- 5) 3月1日の研修会について
- 6) 今後のスケジュールについて
- 7) 会報55号の執筆について

4. 今後の課題

18歳人口の減少、看護を希望する学生の減少、学力不足の学生や配慮を要する学生の増加など看護学教育を取り巻く社会の変化が激しい中、長期的な事業活動は具体的な計画が立てにくい状況にある。情報化の変化への対応や新カリキュラムの運用に関する情報を共有し、教育方法の工夫や開発による「教育の質」の更なる向上のための長期計画へと発展させていく年度としたい。又、本協会の会員校である私立大学のもつ多様なニーズを把握し、私学の特色を生かした事業を企画していく必要がある。

一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 新任教員向け研修会「大学教育とは」当日参加者アンケート結果
 当日参加者：会場参加 17 名、Zoom 参加 66 名、オンデマンド配信視聴者：476 名
 アンケート回答者：100 名

会場開催、Zoom を用いたライブ配信

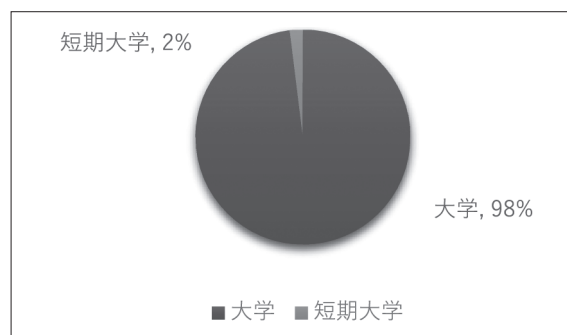
開催日：2025 年 8 月 2 日（土）

オンデマンド配信：2025 年 8 月 8 日～11 月 8 日

1. 参加者について

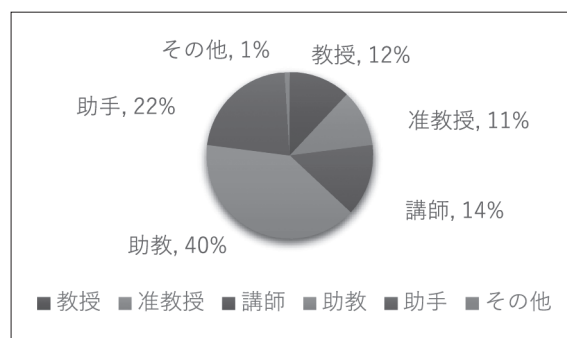
①所属

	人数	割合
大学	97 人	98%
短期大学	2 人	2%
合計	99 人	100%



②職位

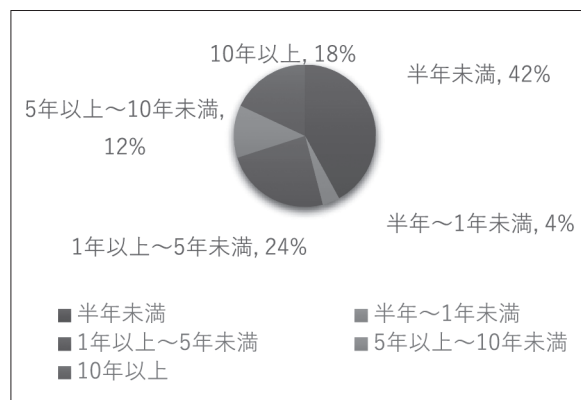
	人数	割合
教授	12 人	12%
准教授	11 人	11%
講師	14 人	14%
助教	39 人	40%
助手	22 人	22%
その他	1 人	1%
合計	99 人	100%



その他：司書

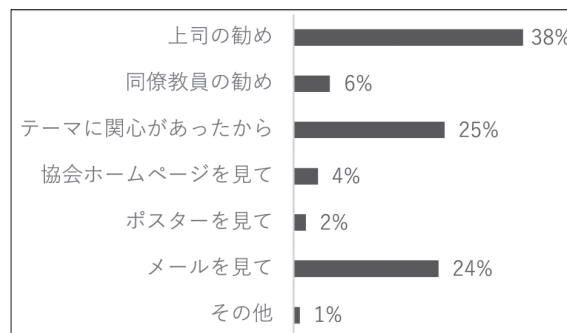
③在職期間

	人数	割合
半年未満	41 人	42%
半年～1 年未満	4 人	4%
1 年以上～5 年未満	23 人	24%
5 年以上～10 年未満	12 人	12%
10 年以上	18 人	18%
合計	98 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	45人	38%
同僚教員の勧め	7人	6%
テーマに関心があったから	30人	25%
協会ホームページを見て	5人	4%
ポスターを見て	2人	2%
メールを見て	29人	24%
その他	1人	1%
合計	119人	100%



(その他)
FD活動として

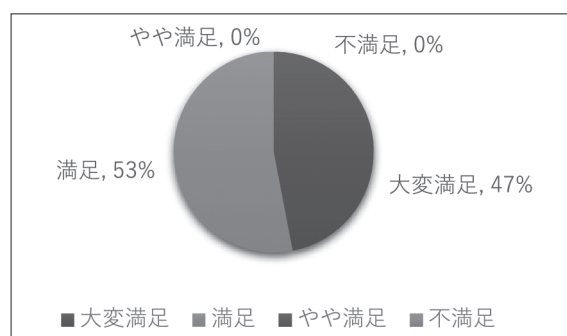
2. 講演について

①「私立看護系大学を理解する」

講師：鳥袋 香子 氏（北里大学 名誉教授）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	47人	47%
満足	53人	53%
やや満足	0人	0%
不満足	0人	0%
合計	100人	100%



2) ご意見、感想など

- ・具体例もありわかりやすい内容であった。
- ・大学なので研究を第一に考えていた。しかし、運営という視点で考えた際には、どのような魅力があり、どのような人になっていくのかという教育の視点も重要であり、結果として、大学の運営にも関係していくと痛感した。大学の運営についてはまだまだ分からないことがあるが、研究だけではなく、どのように学生を育てていくのか、それが大学の運営にもつながっているという視点を忘れずに、研鑽に努めていきたいと感じた。
- ・私立大学の現状と、これからについて考えることができ、大変貴重な時間であった。
- ・卒業大学が国公立であったため、私学としての特性について理解や実感が追いついていなかった所がありました。本日の講義にてその点の理解も深まり、今後の職務に繋がる貴重な時間となりました。
- ・経営だけではなく、社会に目を向けることがなかなか難しいのですが、それを意識して日々の生活を送ることが必要であると感じました。そこから研究の視点もうまれてくると感じたので、大変良い時間となりました。
- ・質疑応答での研究についての太田先生のご発言がとても素敵で、心に残りました。臨床から、初めて大学に着任し、他の先生方の実習や、忙しい（けれど大学にいる時間は短い）等を理由とした日々の業務にモヤモヤしていましたが、納得できました。
- ・実践力と教育力、研究力を高めていくことが大変であると感じた。

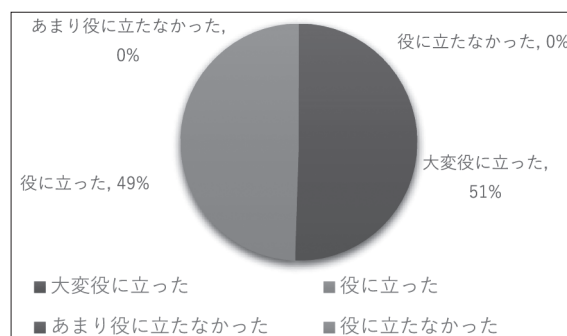
- ・教員経験年数が短く、経営に関しては全く考えていなかった。自分の研究や授業に必死になっているだけでは不十分なのだと認識した。
- ・大学の仕組みについて知れた。
- ・不安定な社会情勢を生き抜く大学運営のために、イノベーションに参画できるような教員にならねばと改めて実感いたしました。また、自大学に不足している部分についてもいくつか思いつくことができましたので、助教としてフォローシップを発揮していきたいと感じました。
- ・着任から4ヶ月、とても慌ただしい日々でしたので、改めて大学教育の枠組みについて知りたいことやスケジュールや時間確保の葛藤など、まさに今日の前にある課題について学び考えることができました。機会がありましたら現地でも参加させていただきたいと思いました。
- ・私立大学の責務について知ることができました。
- ・今まで教育に携わる事がなかったが、今年から大学に教員として関わらせて頂く事になり、この講義を通して、大学の会議で出てくる話の内容の根本的な意味を少し理解出来たように思う。また、微力ながらも、今、自分自身ができる事に関しては、鳥袋先生のアドバイスを参考に継続した意識を持ち続けていけるよう努めたい。
- ・私立看護系大学のおかれていた状況がよくわかりました。
- ・私立大学を取り巻く環境を多面的に考える機会となりました。特に法律や運営、補助金のことは自身が考える機会となりました。
- ・これからも大学で働くことを考えた時に経営のことも考えていかなければならない事が、わかっていたようでわかっていなかったことに気が付くことができました。
- ・私立大学を取り巻く法体系が理解できました。私立大学等改革総合支援事業の前年度からの変更点が理解できました。「研究に向き合う姿勢」については、改めて、自戒も含め、領域の教員と共有したいと思いました。
- ・知らないことが多く勉強になりました。
- ・所用のため途中から参加になりましたが質問も含め、研究支援の立場でもあり、経営的視点が大変参考になりました。オンデマンドも視聴させていただきます。
- ・私は広報委員会として入職後すぐに活動しています。今回の講義で大学の経営に関して基本的な事を知る事ができ大変参考になりました。また、看護師から服飾系へ進んだ方の鳥袋先生の話を知り、このような話は非常に興味をもちました。本学はまだ歴史が浅いことからこのような進路者はいませんが、医療法人が母体であるため「看護師＝医療機関へ」という考えが若干根強いですが、看護を学ぶことで視野・進路が広がることを学生へ伝えられるようにしたいです。
- ・国家試験の合格率至上主義で学生に向き合わなければいけないことが多く、毎日自分の価値観との差に苦悩しております。また、助手という立場であるため、上席の先生からの仕事をする事が多く、自分の時間を取ることができません。そういったことを解決していただけるような場の紹介等があるとありがたかったです。
- ・このような研修を聞きたいと思っていましたので、参加して良かったです。私は、管理者経験を得て、大学に移りましたので、組織を通して大学を見ている自分がありました。着任後、3ヶ月目くらいにこのお話を聞けると、私学大学のことが理解できると思いました。現場では、誰も教えてくれません…。同じ助教は、知らないと思います。伝達していこうと思います。
- ・わかりやすい講演だった
- ・私立大学全体のポリシー、独自性の発揮が求められている部分を整理でき、自らの職務の中でどのような行動が求められているか考える良い機会になりました。
- ・私立系看護大学について、法律を含めご説明いただいたことで、果たすべき役割や自身の取り組みについて、考えをより明確にすることができました。
- ・臨床看護師から期間を空けず教員になったため、法律のこと等なかなか勉強しきれない部分でもあったため、大変勉強になりました。

- ・運営などは自分とは関係の遠いものと捉えていたが、新任教員の自分でも考えるべき事がたくさんあった。
- ・私立系大学の教育について考える良い機会になりました。
- ・基本的なことが良くわかりました。
- ・勉強になった。
- ・鳥袋先生の経験豊富なお話を聞けて、大変参考になりました。少子化でかつ看護職者へのニーズが減っている背景で、どのように若者をリクルートしていくか、我々看護系大学の継続的な課題だと再認識しております。
- ・とても分かりやすく、現実性があった。
- ・経営のことなど大学運営全体のこと少し見えるようになった気がします。全体が見えてこそ細部の意味が分かると思いますので、今後大学教育に携わるにあたり、とても大きい学びになったと思います。
- ・端的で非常に分かりやすい講演でした。
- ・とてもわかりやすい内容でした。
- ・事務次長からの勧めにより、事務職ですがアーカイブ視聴いたしました。法的根拠等の基本的なところから、看護大学に合わせてわかりやすく具体的に解説していただけて少し理解が進みました。図書館のことを先生方に伝えるのに、「こういうアプローチをしたらいいのかも」と参考になりました。
- ・看護系大学の現状について詳しく知ることができたことで、教員としての役割意識や責任意識が向上しました。
- ・社会や人間の特性が変わっていく中で、3つのポリシーは非常に重いものであると感じます。重要なのは、どのような看護師（もしくは看護師国家試験を持つ人材）になってほしいのかというビジョンを明確に持ち、それを十分にアピールし、それを成し得る学生が集まってくるようなサイクルを作ることであると感じました。
- ・私立大学において、現在、経営の存続は重要な問題となっている中で、新任教員も経営に意識をもって取り組む必要があることがわかりました。私立大学に着任して思うことは、想像以上に看護師養成機関としての意味合いが大きいということです。鳥袋先生もご講演されていましたが、私は、看護大学に入ったから必ずしも看護職として働くという選択肢だけでなく、他学部のようにその学問的知識を活かして様々な分野に羽ばたいていく学生がいてもよいのかなと思っています。看護学はもう少し学問的に自由で、そのようなキャリア選択をした人にも寛大であってほしいと思うところです。そのような点からも、国家試験の合格率や有名病院への就職率などは、やはり大学の教育の質を評価するものではない気がしています。今回の講演は、私の中で1つのイノベーションのきっかけともなる気がしました。
- ・大学経営への参加などは頭になかったので、視野を広く持たねばと思った。
- ・大学経営、役員などの運営の仕組みなども含め、教員の全体像が分かりやすかった。新任教員としての役割意識が芽生えた。
- ・大学運営に関する知識を深めることができた。
- ・大変詳しい内容の研修動画を視聴することができた。私自身の意識改革が出来たように感じました。
- ・私立看護系大学の行く末を理解できたので良かったです。
- ・私立看護系大学の教育として重点をおかなくてはならない事が法律や国の動きなどから明確に説明いただき、大変参考になりました。
- ・勉強になりました。
- ・大学教育の法的基盤を知らなかったので、日々の出来事が意味づけられ、大変参考になった。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	50人	51%
役に立った	49人	49%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	99人	100%



2) ご意見、感想など

- ・自身の普段の教務に対する捉え方を振り返ることができました。
- ・最後の質疑応答について、身を削ってでも研究して明らかにしたいと熱中できるものがない。今後の身体について再考する必要があると思った。
- ・成果をあげている大学のモデル例等の紹介をいただけるとありがたいです。
- ・質疑応答にもありましたが、私立大学ならではの新任教員を含む教育者の課題、困難感などについて、個人の取り組み、組織の取り組みなどをテーマにした講演やグループワーク等あればと感じました（現地のGWがこれに該当するのかもしれませんが）。
- ・私立大学の現状や経営についての国の方向性等は、新任の教員だけでなく、大学教員の皆さんが聴いた方がよい内容だったと思いました。
- ・今後も定期的に私たちのような新任教員向けの研修を行っていただけると幸甚です。
- ・とても分かりやすい内容でした。
- ・毎年開催いただきますと、新任の先生にオリエンテーションの一部で、自覚も出来る良い企画だと思いました。とてもわかりやすかったです。
- ・質問者さんのコメント（研究の初心者で他先生方は忙しそうでしたら・・・）に対して非常に共感しつつ、太田先生の返答を伺い、身が引き締まりました。
- ・もっと詳細に聞きたいです。
1日コースであるといいと思います。
自分の大学のホームページや組織図、建学の精神など踏まえながら、勉強できるいいと思います。
この研修の内容を参考にしながら、自分の大学の組織図やいろんな資料に目を通して、自分なりに整理しようと思いました。
新任以外にも、このような内容を絡めた、大学とはや文科省ことなど、勉強できる企画もあるといいと思いました。
- ・大学経営の健全化を強く願うのみです。
- ・企画内容は新任教員にとってとても良いものだと感じました。
- ・新任向けの内容としてわかりやすく簡潔明瞭にご説明いただき、大変勉強になりました。
- ・講義の時間もちょうどよく、事前に資料配布があったこともどんな内容の講義か知ることができ、良かったです。
- ・少子化の現状のなか、こども一人にかかる子育て費は大きくなるため、また女性の社会進出がますます増加する中、大学教育はニーズが高まると思う。
- ・現実的に、どのような戦略を組んでいくか、考えねばならないと思いました。
- ・とても良い企画だと思います。教員の基盤になる講演だった。

- ・新任の教員の立場として、理解しておくべき内容であり、貴重な講演でした。
- ・なかなか職位の低い教員では焦点を当てない部分について、丁寧に解説をしてくださったので、また新たな視点で大学教育を考える機会になりました。
- ・新任教員として同じ思いを抱えている安心感が得られる機会であった。孤独感が軽減された。
- ・質疑応答で、誤解を招かないかと思いました。看護の魅力についてですが、病院勤務の看護師には魅力がないと仰っているようで、病院勤務が長かった者にとっては残念でした。また、研究についてですが、勤務時間にとらわれず研究をするのが当たり前と言う考えには疑問を感じます。健康を守るあるいは指導する看護職が自分自身の健康を考えないでどうするのかと思います。昭和の根性論ではなく、研究を遂行できる環境を作り出す努力が大学全体で必要なのではないのでしょうか。
- ・質疑応答に関してです。質問は、「研究に取り組んでいきたいが、大学内部の上司には相談しにくいので、何か相談できる外部機関がないか？」という内容だと認識しました。端的に言えば、最終的な回答は「忙しいことを言い訳にせず、頑張って研究に取り組みなさい」といった論旨のずれた回答だったと感じます。新人の助教からすれば、質問された方の心情が痛いほど分かります。忙しいと言っているのは上司であり、質問者自身が忙しいなど、ひと言も言っていなかったと思います。上司には声をかけにくいと言っているのに、質問者の真意をくみ取らず、「まずは教授に相談しましょう」と回答されたことに、聴講者としては、やはり教授の方々には理解してもらえない問題なんだと感じました。

4. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・研究の勉強の仕方について
- ・看護系大学教員としての教育の視点や学生との向き合い方について
- ・魅力ある大学にするために、教員の持つ強みの見つけ方
- ・働き方改革の時代とジェネレーションギャップを交えた、大学教員の在り方
- ・シラバスについて、書き方、工夫など
- ・これからの地域共生社会の中で看護系大学が目指す看護師とその教育方法
- ・研究資金獲得について、教育方法について、大学院への進学について
- ・教育の質、補助金獲得への取り組みの事例について
地域や自大学の特性をふまえて、どのようにPDCAを回しているのかに興味があります。
- ・学生対応の在り方
- ・魅力ある大学にするための工夫
- ・臨床経験が長い新任教員向けの研修
- ・大学教員は、独特の風土があると感じています。
仕事のノウハウ、教員として成長していくには、メンタル、などのテーマもあるといいと思います。
- ・研究を進めていくポイントについて
- ・今後の看護師人材確保のため、現代の高校生・中学生向けに看護の魅力や看護大学の魅力を伝えるために、どのような発信方法や内容が効果的か、ご教示いただけるような研修がありますと幸いです。
- ・特に大学に関する法改正等があった場合にはテーマとして扱ってほしいと思います。
- ・教員としての在り方、役割など
- ・臨床教員について
- ・合理的配慮について

- ・LGBTQ について
 - ・理系の中での他分野と比較して、看護の研究は特殊であるように感じています。
 - ・顕微鏡をのぞいたり、スポイトで薬品を混ぜ合わせたりというような、いわゆる「実験」のような研究が少なく、人を対象にインタビューを行うような人文社会学系の研究に似ている感覚があります。
- 医学部と併設されているようなところだと、医学的な研究色が強く看護の研究を行うためのノウハウも整っていなかったりして、看護の研究を行う環境の整備は望まれるように思います。看護の研究が促進されるような機会があれば、より積極的に参加したいと感じます。
- ・私立系看護大学が育成すべき学生とは
 - ・新任大学教員の交流会
 - ・教育の質を高めるための教授方法について
 - ・効果的な授業計画・評価について
 - ・学生を引き付ける講義資料作成方法・講義方法について

②今後の講演会の開催時期について

- ・3月 (1)
- ・5月 (2)
- ・6月 (1)
- ・8月 (15)
- ・9月 (2)
- ・12月 (1)
- ・各校オープンキャンパスが開催される前の春頃 (1)
- ・いつでも (1)

③今後の講演会の開催方法について

- ・オンライン (ライブ配信とオンデマンド配信) (32)
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式 (55)
- ・会場開催 (3)

④今後の講演会の開催場所について

- ・東京 (6)
- ・神奈川 (2)
- ・千葉 (1)
- ・埼玉 (1)
- ・大阪 (1)
- ・関西 (1)
- ・福岡 (2)
- ・九州 (1)
- ・地方以外 (1)
- ・アルカディア市ヶ谷 (1)

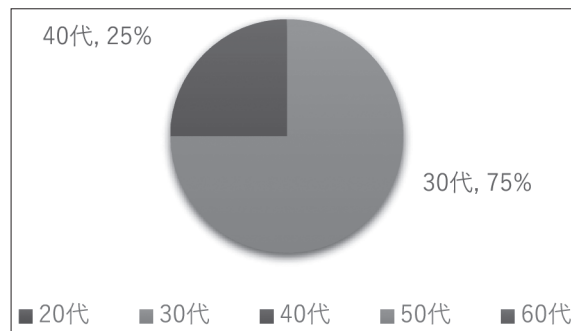
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 2025年度新任教員向け研修会「大学教育とは」グループワークアンケート結果
 参加者：16名、アンケート回答者：9名

開催日：2025年8月2日（土）

1. 参加者について

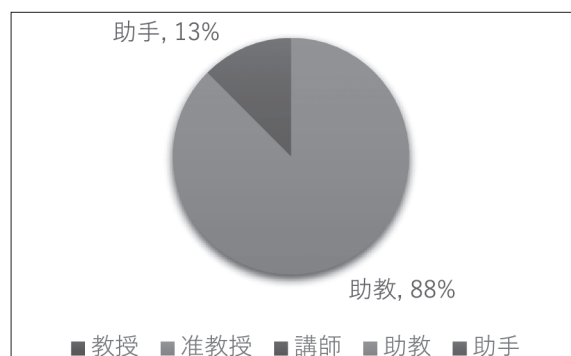
①年齢

	人数	割合
20代	0人	0%
30代	6人	75%
40代	2人	25%
50代	0人	0%
60代	0人	0%
合計	8人	100%



②職位

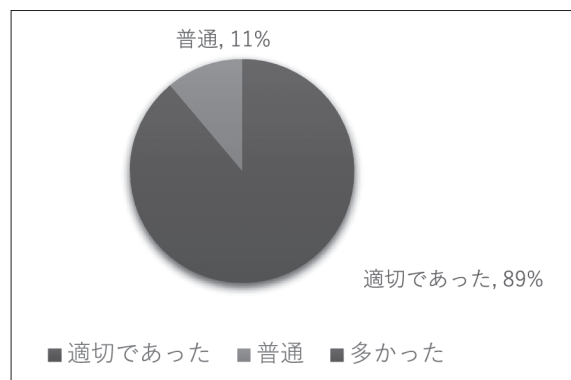
	人数	割合
教授	0人	0%
准教授	0人	0%
講師	0人	0%
助教	7人	88%
助手	1人	13%
合計	8人	100%



2. グループワークについて

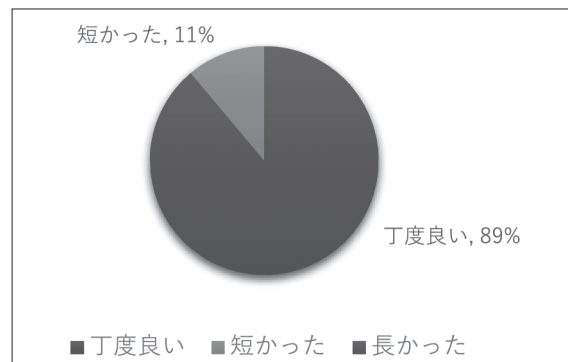
①グループの人数について

	人数	割合
適切であった	8人	89%
普通	1人	11%
多かった	0人	0%
合計	9人	100%



②グループワークの時間配分について

	人数	割合
丁度良い	8人	89%
短かった	1人	11%
長かった	0人	0%
合計	9人	100%



③グループワークに参加した理由について

- ・他大学の先生方と話す機会がなかなかないため。
- ・他大学の教員と交流を持てると思ったため。
- ・他校の先生方と交流したいと思ったため。
- ・他大学の教員間と意見交換をしてみたかったから。
- ・新任教員との交流がないため。
- ・事前の情報で、グループワークが好評と聞いていたため。
- ・他大学の先生方と情報の共有・交換ができると思ったから。
- ・他の大学の状況を知れる機会になるから。
- ・他大学の方たちの意見も知りたかったため。

④グループワークの感想

- ・ファシリテーターの先生方の解説も時折あり、非常に充実したディスカッションだったと感じました。
- ・グループワークに参加できてよかったです。教育、研究に関したくさんの工夫、取り組みを知ることができました。
- ・教育、研究に共通の悩みがありつつも大学ごとの対応を色々と検討されていて、励みになりました。
- ・開始前はテーマが定まっていなかったことが不安でしたが、皆さんと活発な意見交換ができたので、とても充実したグループワークになりました。
- ・新任教員、他大学との交流がほぼないため、各々の現状や悩みを聞くことができるととても良かったです。全体ディスカッションの時間があっても良いのかと思ったが、もう少し話したいと思う時間配分だったため、結果として他の参加者とも交流できて良かったと思う。
- ・他大学との情報交換ができ、とても有意義な時間だった。
- ・他領域の先生方とざっくばらんにお話することができてとても良い機会になりました。
- ・グループワーク自体は大変有意義でしたが、主催者側から頂いたコメントで、「大学教育は国家試験に受かるまで」とおっしゃられていた方がおり大変遺憾に感じました。午前中の講義で紹介された教育基本法との齟齬を感ずるし、教員としての責任を失うのではないのでしょうか。臨床の新人教育の大変さをご理解いただけないようですが、今回の研修は、臨床を退職して教職に就いた方達が対象だと思いますので、グループ内外でもこのコメントを不思議に感じている方がいました。臨床に出た時に、周りも、本人も困らないように、また、患者さんに病気以外の苦痛をもたらさないように教育していくのが看護師教育には必要ではないのでしょうか。国家試験に受ければ良いというものではないと思います。

3. 今後、取り上げてほしいテーマについて

- ・ 教員歴 1-3 年目対象に授業のやり方など
- ・ 効果的な実習運営のためのデジタルツール活用（電子入力や病棟内の資料収集）と個人情報の保護配慮
- ・ 合理的配慮について
お話の中に、合理的配慮のゴールは「HELP を自発的に出せるよう支援する」とありましたが、そのためには在学期間中に、カウンセラー含め養護教員と継続して関わっていく必要があると思いました。策として個別のケアプラン的なものを作成した方がいいのか、結局、在学中の配慮のみに留まらず看護師として臨床に貢献し続けられる人材を育成する対応にどういったものがあるのか気になりました。また、臨床中にそういった新人に関わったことがないので、臨床での対応も含め気になります。
- ・ 臨床指導者研修について
看護師として働く以上、人材育成に関与しないことは有り得ませんが、臨床が人材育成として認識している範囲が「新人看護師」に留まっているように思えます。今回お話に出ていた CNE のような対応がどの程度浸透しているのか、臨床に「学生教育」を意識づけるための取り組みなどについても詳しく知りたいと思いました。
- ・ 各大学の実習や教育について各大学の教育や研究について、新任や若手であるからこそその視点での話もあると思ったため。
- ・ 新人教員の研究と教育の具体
- ・ 合理的配慮の学生への対応方法について情報交換がしたい

一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 研修会「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」

当日参加者アンケート結果

当日参加者：会場参加 6 名、Zoom 参加 59 名

アンケート回答者：35 名

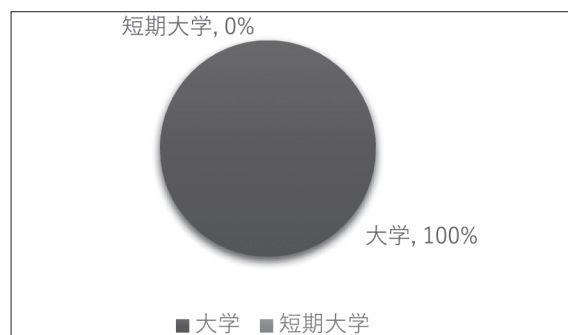
会場開催、Zoom を用いたライブ配信

開催日：2026 年 3 月 1 日（日）

1. 参加者について

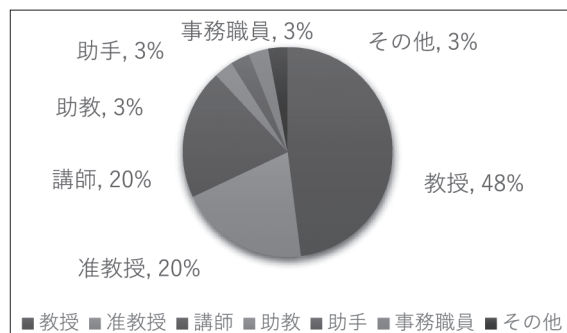
①所属

	人数	割合
大学	35 人	100%
短期大学	0 人	0%
合計	35 人	100%



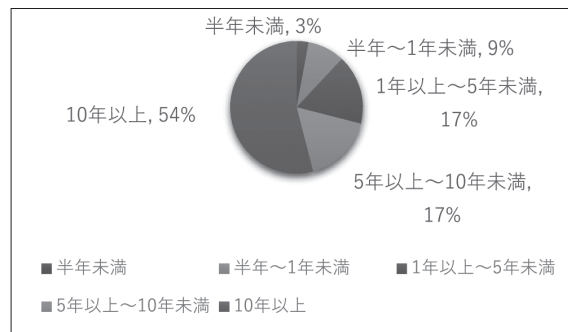
②職位

	人数	割合
教授	17 人	48%
准教授	7 人	20%
講師	7 人	20%
助教	1 人	3%
助手	1 人	3%
事務職員	1 人	3%
その他	1 人	3%
合計	35 人	100%



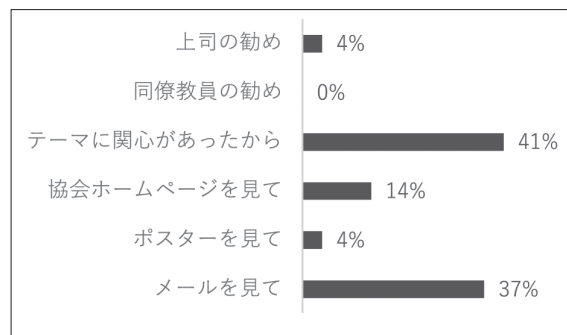
③在職期間

	人数	割合
半年未満	1 人	3%
半年～1 年未満	3 人	9%
1 年以上～5 年未満	6 人	17%
5 年以上～10 年未満	6 人	17%
10 年以上	19 人	54%
合計	35 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	2人	4%
同僚教員の勧め	0人	0%
テーマに関心があったから	21人	41%
協会ホームページを見て	7人	14%
ポスターを見て	2人	4%
メールを見て	19人	37%
合計	51人	100%



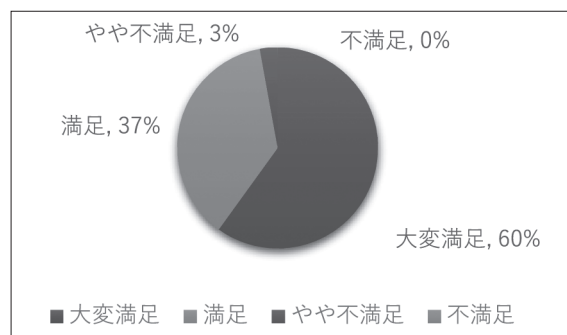
2. 講演について

「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」

講師：西村 優紀美 氏（元富山大学 保健管理センター 准教授）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	21人	60%
満足	13人	37%
やや不満足	1人	3%
不満足	0人	0%
合計	35人	100%



2) ご意見、感想など

- ・とてもわかりやすく、理解が深まりました。参加してよかったです。
- ・大学での教育をどこまでをゴールとして考えていくかが、難しいと思う。
- ・今後の教育に活かしていきたいと思います。
- ・具体的なお話で良かった。
- ・新しい知見を紹介いただけるので、よい学習機会となっている。
- ・学生支援について知りたいと思っていた内容でした。
- ・発達障害など本人も理解できていない場合も多く、どこまでの支援が可能なのか、どんな支援ができるのか模索している現状がある。本人からの申請がなくても気になる学生は多く（欠席が続く、講義の理解が追い付いていない、課題を提出しないなど）、個別に気にかけてながら話をしていくことの必要性を感じた。
- ・知っている内容であったため、具体的な支援、実際の支援内容等を聞きたかった。
- ・何度かお話を伺っておりますが、やはり実際のこととなると難しさを感じてしまいます。特に臨地実習における合理的配慮は大学だけでなく、実習先との共通理解、協力なしにはできないと思いますので、本校もこれからの課題だと考えています。
- ・昨年に続いて参加しましたため、今年はADHD,ASDの学生への支援について（各1枚の表にお示しいただいた内容）時間をかけて具体的にお聞きしたかった。
- ・よくある間違いと望ましい対応の両方を提示して頂き、とても分かりやすいご講演でした。医療安全の視点での議論も必要と考えます。
- ・大学教職員が一致団結し、専門対応部署を立ち上げて、学生の誰一人不本意な退学、留年をしな

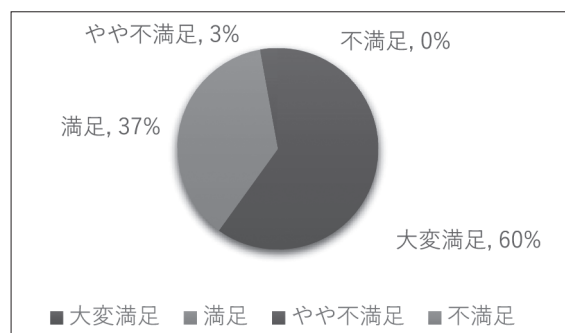
い仕組みをつくる。教職員も心身の安全を保ちながら教育に邁進できるようにしたい。

3. 指定発言について

発言者：越村 章子 氏（株式会社 Cossy、当事者家族）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	22 人	65%
満足	12 人	35%
やや不満足	0 人	0%
不満足	0 人	0%
合計	34 人	100%



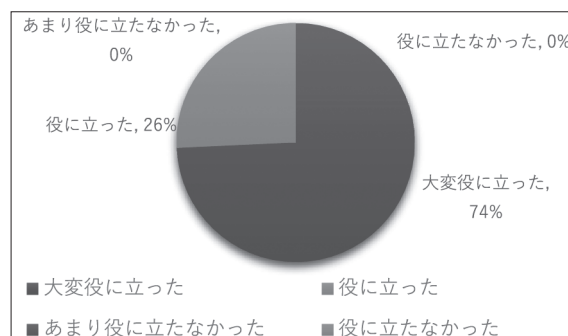
2) ご意見、感想など

- ・教員に勇気と希望を与えてくださる内容でした。
- ・当事者（親）の実際の話が聞けてよかったです。
- ・分かりやすかった。もう少し話を聞きたかった。
- ・具体的なお話で良かった。支援した後、支援対象の生活が見えないところがあったが、知れて良かった。
- ・具体的でわかりやすかった。改めて、サポートについて考えさせられた。
- ・当事者家族からのお話が参考になった。
- ・家族の立場で行った支援や要望などをもっと知りたかった
- ・経験からの具体的な支援を聴くことができ、参考になった。チーム学校という考え方は必要であると思っている。可能な範囲でよいので資料をいただけるとありがたい。
- ・保護者の立場からの意見は参考になった。当事者からの意見がきけるとさらによかった。
- ・チーム学校という考えについて、学生本人もその中の一員として自分は何ができるのかを一緒に考える機会が大事だと思いました。息子様が看護師として活躍されている姿に感動いたしました。
- ・支援のあり方により看護師になる目標を実現され素晴らしいと思い拝聴しました。一つのチームになれるよう、日頃の態度や言葉、環境づくりに心がけたいと思いました。
- ・当事者の視点の一端を知ることができました。PDF 資料として共有して頂きたかったです。
- ・教職員、実習施設などご本人と協働して目標を達成して生き生きと活躍されている今。そこに至るまでの語られないご苦勞があったのだろうと推察します。尊敬します。
- ・コッシーさんのお話をもっとお聞きしたかったです。

4. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	26人	74%
役に立った	9人	26%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	35人	100%



2) ご意見、感想など

- ・今後も定期的に今回のような企画内容を希望いたします。
- ・今後も今回のようなテーマを希望します。
- ・必要だと思います。午後の事例検討会は、遠隔での参加もご検討いただきたい。
- ・このような具体を教えてください。それがよい。
- ・事例を踏まえていただくと理解が進むと思う。
- ・先駆的に取り組まれている先生の講演のみならず、当事者の方からのお話を聞くことができ、大変貴重な機会となりました。ただ遠方でZOOMでの参加でしたので、後半の事例検討に参加できなかったのが残念でした。ZOOMでも事例検討できるような機会をつくっていただきたら、なお有意義な研修となったのではないかと存じます。
- ・タイムリーなテーマで不足していた内容が分かった。
- ・大変有意義でした。更に具体的な配慮内容など、差し支えない範囲でお聞きしたかったです。
- ・できれば、日曜日はさけていただきたい。略歴の紹介は、スライドに示していただき、講演の時間を確保するほうが良いと思いました。
- ・切実に取り組まなければならないテーマだと思いますので、また機会がありましたらお願いいたします。
- ・指定発言の資料もご提供頂きたい。講演時間内に終えるルールを、座長・演者ともに徹底してはいかがでしょうか？
- ・今回のテーマは継続して各大学の活動推進を支援していくべきと考える。
- ・進行がもっとスムーズだとよかった。

5. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・変化する学生気質に対応するための教育手法
- ・オスキーについて
- ・組織のハラスメント：これだけアカデミックハラスメントの対応が言われていても、いまだに職位によるハラスメントが収まらない。ハラスメントされた側の、対応を知りたい。
- ・学生の実習での看護実践能力獲得に向けた支援について
- ・発達障がい学生が卒業するための必要事項に、国試受験資格は必要か？臨床せずとも、当事者研究としての研究者としての道は開かれているのか？
- ・DX化、AIなどに伴い、教員としてリスクやトラブルを防止する方法
- ・引き続き、配慮を要する学生について

- ・障害学生支援の組織づくりと実際の活動について
- ・少子化時代に私立看護大学はどのように生き残るのか

②開催時期

- ・2月 (2)
- ・3月 (5)
- ・9月 (1)
- ・夏季休暇期間 (1)

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）(19)
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式 (14)
- ・会場開催 (0)

④開催場所

- ・アルカディア市ヶ谷 (1)
- ・甲信越地方 (1)

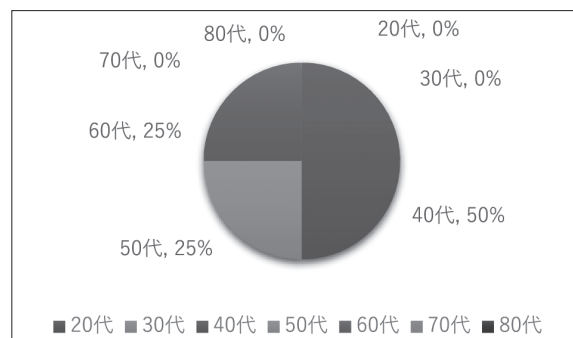
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 研修会「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」
 事例検討会アンケート結果
 事例検討会参加者：6名、アンケート回答者：4名

開催日：2026年3月1日（日）

I. 参加者について

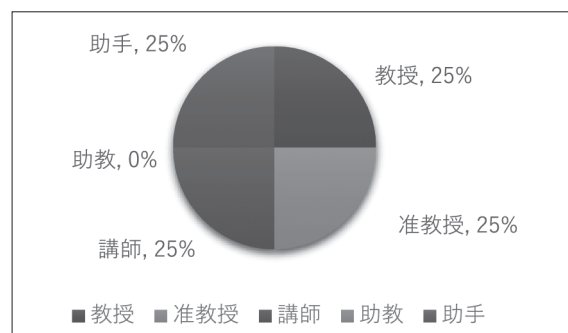
1. 年齢

	人数	割合
20代	0人	0%
30代	0人	0%
40代	2人	50%
50代	1人	25%
60代	1人	25%
70代	0人	0%
80代	0人	0%
合計	4人	100%



2. 職位

	人数	割合
教授	1人	25%
准教授	1人	25%
講師	1人	25%
助教	0人	0%
助手	1人	25%
合計	4人	100%



II. 事例検討会について

1. グループの人数について

	人数	割合
適切であった	2人	50%
普通	2人	50%
多かった	0人	0%
合計	4人	100%

2. 時間配分について

	人数	割合
丁度良い	4人	100%
短かった	0人	0%
長かった	0人	0%
合計	4人	100%

3. 事例検討会に参加した理由について

- ・午前の学びを踏まえて、合理的配慮について動き出している大学、苦慮している大学の現状を語り合い、解決に向けての具体的対策に役立てたい。大学経営層に計画書を提出する時に遡及力を高めたい。
- ・他の大学の先生と意見交換したいと思った。

4. 事例検討会の感想

- ・グループ内で立場が異なるが、それぞれの困っていることや実践していることがつながり、やれることがあると思えてきた。また、サポートして下さった先生方から貴重なアドバイスをいただいた。
- ・職位が様々で、それぞれの立場や目線からの意見を伺うことができた。
自分の職位からも学生の支援に貢献できるような組織づくりが非常に重要であると思った。

Ⅲ. 今後、取り上げてほしいテーマについて

- ・新人看護職の早期退職を防ぐために学生時代からできること

「教員募集の際の情報の有用性を高めるための対応について」

2025年8月に当協会の理事を対象に「教員採用時の追加情報に関する調査結果」を実施させて頂きました。その結果概要（記述統計結果）は2025年12月の理事会の際に報告させて頂きましたが、得られた自由回答を含めて以下のように最終報告をさせていただきます。

1. 調査時期 2025年8月4日から9月5日
2. 対象 私立看護系大学協会理事
3. 方法 Google Formsによるオンライン調査（無記名）
4. 調査内容 教員募集の際に応募者に一般的に求めている個人調書、業績調書以外に、第3の調書を求める場合、そこに含むべき項目案（8項目）についてその有用性、情報の信憑性、情報収集（そのような情報を求めること）の適切性についての自由回答

1. 基本的な考え方

職務遂行能力、教育研究業績に関係の無い情報を応募者に対して求めることは問題であり、また、応募者はそれらを申告（提出）する義務はないとされている。逆に、学位・学歴、研究業績、教育に関する職歴および教育能力については業務遂行上必要な能力あるいは資格であるため、応募者には申告の義務があると考えられる。そして、これらの情報は現行の応募書類「個人調書」と「業績調書」として提出されている。しかしながら、たとえば業務遂行能力に関わる学生に対するハラスメント行為などは、基本的に上記応募書類に記載されることはなく、応募者が自発的に申告しない限り採用時面接においても把握することは困難である。

このような状況を踏まえて、応募者の権利に十分配慮しつつも見逃してはいけない応募者の問題を的確に把握することは、学生の安全、教育の質、組織運営において重要なことである。もちろん、優れた応募者が応募を躊躇ってしまうような過大な情報提供の要求とならないように配慮する必要がある。

以上を踏まえて、どのような情報をどのように収集するかについて、今回の調査結果に基づく検討結果を報告する。

2. 第3の調書の追加の可否について

応募者のプライバシーへの配慮（社会通念上、応募に不利になる情報を強制的に求めないなど）、ならびに、現行の2文書（「個人調書」と「業績調書」）の運用を考え、教育上の問題や組織運営上の懸念（人間関係の問題など）を主たる内容とする第3の調書については追加しないこととする。

その代わりに、現行2文書のよりの確な運用、および、一部で運用されている「推薦書」等について、その有用性を高める工夫を検討することとする。

3. 具体的な改善策と提言

- 1) 現行2文書（個人調書・業績調書）の「記入上の注意」の明示

記載不備による不利益や、経歴の空白によるリスク隠蔽を防ぐため、以下の指示を明示する。

①職歴の連続性：学業を修め社会人となった以降のすべての期間について、その従事期間に切れ目がないよう記載を求める（無職、専業主婦、自宅療養、留学準備なども明記させる）とともに、それぞれの職歴について、職種と職位の明記を求める。

②賞罰の明記：過去に、教育・研究活動、ならびに職務遂行に関して、所属機関または公的機関により懲戒処分を受けた事実がある場合は、その処分内容および概要を記載し、ない場合には「なし」と明記するよう求める。これについて虚偽申告があった場合には、選考手続きの中止あるいは採用後の何らかの処分の対象となることを示す。ただし、業務遂行（教育等）に直接関係の無い（賞）罰に関する情報を求めることは許されず、業務遂行に関わる賞罰であつても強制的に報告を求めることは応募者の不利益となるため、十分な配慮が必要である（これについては法曹家の確認が必要）。

2) 推薦書の機能強化（リファレンスチェックの導入）

推薦書を単なる儀礼的な書類とせず、必要に応じて照会可能なものとする。

①必要数：職責の重さに応じて設定する。

- ・教授、准教授・・・2部
- ・講師、助教・・・1部
- ・助手・・・・・・・・・・不要

②作成者（推薦者）の要件：推薦書を依頼する相手について、以下の通り「必須要件」と「推奨要件」の2段階を設定し、その区別を明確にする。

- a. 必須要件（必ず満たすべき条件）：人事選考において、必要時に大学側からの問い合わせに応答できる人。
- b. 推奨要件（可能な限り満たすことが望ましい条件）：原則として1年以上、望ましくは2～3年以上、職務上の関係がある人。

③記載事項：応募者との関係および照会対応用の連絡先（電話番号・メールアドレス）の明記を必須とする

3) 「教育への抱負」におけるコンプライアンス意識の確認

大学の裁量で求める「教育への意欲・抱負」等の文書において、ハラスメント防止や学生の人権配慮に関する記述を求める。

<指示例>

「教育への意欲・抱負」について、A4用紙1ないし2ページにまとめて応募書類に添付して下さい。なお、記述の中には、学生の人権や安全を守るために、教育者としてどのような取り組みや配慮をされてきたか（あるいは行う予定か）を含めて下さい。

* 「個人調書」と「業績調書」ならびに推薦書、その他の文書「***」の作成と記入上の注意について・・・文書のサンプル添付

2. 研究活動委員会

1. 趣旨

- ①教員による研究費獲得の向上、学術研究の推進に関わる活動
- ②研究助成と研究者の交流に関わる活動
- ③研究に関するセミナー等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 亀井 智子（聖路加国際大学）
- 小松 万喜子（中部大学）
- 前川 幸子（甲南女子大学）

3. 2025 年度事業活動報告

(1) 研究助成事業

2025 年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を 4 月 1 日～5 月 20 日に行い、7 月 13 日に選考委員会で選考した結果を第 2 回定例理事会（7 月 28 日）に提出した。看護学研究奨励賞 19 件、若手研究者研究助成 15 件、国際学会発表助成 10 件を採択することを決定し、8 月から助成金の交付を行っている。

2025 年度研究助成事業選考委員会の開催

日時：2025 年 7 月 13 日（日）13 時 00 分～14 時 20 分

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）亀井智子、小松万喜子、前川幸子

（選考委員）糸井和佳、大坂和可子、小高恵実、小薮智子、近藤麻理、杉本知子、泊祐子、長松康子、羽入千悦子、松岡千代、三次真理、光永憲香

2025 年度研究助成事業選考結果

①看護学研究奨励賞

29 件の応募があり、審査の結果以下の 19 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	論 文 名
安部 陽子	日本赤十字看護大学	Development and validation of scales measuring individual, nursing unit, hospital, and community factors related to fertility intentions of female Japanese hospital nurses
太田 雄馬	東京医療保健大学	Effects of educational methods using extended reality on pre-registration nursing students' knowledge, skill, confidence, and satisfaction: A systematic review and meta-analysis
奥山 絢子	聖路加国際大学	Quality indicators of supportive care for patients with cancer undergoing treatment: a systematic review
北田 素子	城西国際大学	Characteristics of peripheral intravenous catheter cannulation in older Japanese inpatients
小林 成光	東邦大学看護学部	Non-pharmacological treatments for anticipatory nausea and vomiting during chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of the Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023
境 美砂子	金城大学	Moral Distress in the Neonatal Intensive Care Unit Experienced by Nurses Caring for Critically Ill Neonates: A Phenomenological Study
櫻井 佐知子	湘南鎌倉医療大学	Effects of a Tanzanian prenatal group education program about preeclampsia/eclampsia: A quasi-experimental study
佐藤 郁美	新潟医療福祉大学	Comparison and verification of detection accuracy for late deceleration with and without uterine contractions signals using convolutional neural networks
庄村 雅子	東海大学	Impact of Atezolizumab + Bevacizumab Therapy on Health-Related Quality of Life in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma
田辺 幸子	北里大学	Development and psychometric evaluation of the Japanese version of the Nurse Professional Competence Scale Short-Form
中島 千英子	梅花女子大学	Recovery in Mother-To-Mother Peer Supporters Who Have Experienced Difficulties in Child-Rearing: A Phenomenological Study
納谷 和誠	東京医療保健大学	Intensive care unit interventions to improve quality of dying and death: scoping review
二瓶 映美	秀明大学	The Development and Validation of a Scale to Understand Smoking Cessation Efforts Among Middle-Aged Male Workers
野口 京子	湘南医療大学	Feasibility study to improve oral health in older adult patients using visiting nursing services: A pilot study.
畑中 佳子	東邦大学健康科学部	Adjusting to living with chronic liver disease among patients who continue regular healthcare visits for hepatocellular carcinoma surveillance: A grounded theory study
濱西 誠司	関西福祉大学	Comparative evaluation of the sleep quality metrics between a cardboard bed and a camp cot: a randomized controlled crossover study.
本田 歩美	聖マリア学院大学	Work-Family Care Obstacles and Life Satisfaction among Japanese Working Family Caregivers Living with an Older Care Recipient

水野 光	関西医科大学	Development and Examination of an Educational Program Combining E-Learning and Face-to-Face Training That Nurtures Inflammatory Bowel Disease Nurse Specialists
宮前 奈央	兵庫医科大学	Relationship between severe radiodermatitis and skin barrier functions in patients with head and neck cancer: A prospective observational study

②若手研究者研究助成

36 件の応募があり、審査の結果以下の 15 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	研究テーマ
岩澤 敦史	淑徳大学	市販薬乱用を行う若年層の支援に関する探索的研究—コーピング特性とピアサポートの役割に着目して—
大河原知嘉子	東京医療保健大学	病院での就業経験のある新任訪問看護師の自己教育性に関連する個人特性および職場特性に関する混合型研究
岡部 花枝	順天堂大学	中小規模事業場における化学物質の自律的管理の実態および事業者の安全行動意思との関連の検討
田川 史穂里	日本医療大学	中堅看護師の職業キャリア成熟とキャリア・アダプタビリティを促進する教育プログラムの開発
富田 元	藤田医科大学	成人うつ病患者の退院後における否定的思考への対処—再発の有無による質的比較—
永井 翔	人間環境大学	チャイルド・マルトリートメントによって精神疾患と愛着の問題を併せ持つ患者に対する愛着修復看護モデル (RAN モデル) の原案構築
中島 一成	大阪成蹊大学	高齢者の加齢性血管状態変化を考慮した末梢静脈路確保における最適な駆血圧の検証～健常若年成人での先行検証を基盤にした臨床実践へ向けた応用的実験研究～
中山 瑠理	東京情報大学	妊娠・出産・育児中の関節リウマチ女性とその家族に対する専門職の支援に関する実態調査
福田 沙樹	令和健康科学大学	月経前症候群 (PMS) / 月経前不快気分障害 (PMDD) を緩和する看護ケア技術の検討
福永 寛恵	東京女子医科大学	点滴与薬における 6R 遂行 VR アプリを用いた新人看護師教育の教育効果検証：パイロットスタディ
星野 晴彦	帝京大学	看護師のバーンアウトと患者への身体拘束の関連
村上 優人	弘前学院大学	臨地実習における看護学生の心理的安全性を向上させる要因についての調査研究
村田 美穂	埼玉医科大学	地域で暮らすがん患者の災害自助力の向上を目指した基礎調査
山路 野百合	昭和医科大学	COMMUNICATION SKILLS IN HEALTHCARE PROFESSIONALS (CSS-HP©) 日本語版の妥当性の検証
吉田 麻美	関西医科大学	Patient Safety Incident に関与した医療従事者の心理的適応と専門職アイデンティティの変容—支援モデル構築に向けたグラウンデッド・セオリー研究

③国際学会発表助成

15 件の応募があり、審査の結果以下の 10 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏名	所属	論文名
稲岡 希実子	国際医療福祉大学	Promoting Smoking Cessation Education for Patients with Cardiovascular Diseases: A Systematic Review and Meta-Analysis
梅崎 かおり	大阪青山大学	Emotions Experienced by Spouses of Individuals with Young-Onset Alzheimer's Disease: Following Biomarker-Based Diagnosis
笹井 佐和子	森ノ宮医療大学	Circadian rhythm entrainment factors and premenstrual syndrome: a cross-sectional study focusing on chronotypes
谷水 名美	大阪医科薬科大学	Nursing Support for Life after the Discharge of Liver Transplant Recipients in Japan
椿 美智博	北里大学	Impact of advance care planning on the mental health of bereaved families: A systematic review
馬場 香里	聖路加国際大学	Effects of an intensive home visitation program addressing unmet needs in adolescent mothers: a pragmatic controlled trial 若年母の支援ニーズに応える集中的家庭訪問プログラムの効果：実用的対照試験
光木 幸子	同志社女子大学	Effectiveness of Interprofessional Education for Pharmacy and Nursing Students
森山 ますみ	日本赤十字九州国際看護大学	乳幼児健康診査における外国人親子への対応の実相～エスノグラフィを通して見える世界～ 第1報
山中 晶子	武庫川女子大学	When Do Older Hemodialysis Patients Start Thinking About Advance Care Planning ?
吉井 ひろ子	関西国際大学	Development of a Recovery Scale for Families of People with Gambling Problems (Report 1: Examination of the Content Validity of a Draft Scale)

2021 年度から 2025 年度の応募者数と受賞者数

年 度	看護学研究奨励賞		若手研究者研究助成		国際学会発表助成	
	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数
2021 年度	17	11	20	9	4	3
2022 年度	19	13	12	10	1	1
2023 年度	19	11	18	10	14	5
2024 年度	22	20	23	13	13	7
2025 年度	29	19	36	15	15	10
合 計	106	74	109	57	47	26

(2) 学術研究および学術研究体制に関する事業

研究セミナー

①若手研究者研究助成成果報告

2022・2023年度若手研究者研究助成採択者（11名）による研究成果報告を行った。

公開期間：2025年9月13日（土）～9月15日（月）の3日間

公開方法：Web掲載による

公開内容：15分程度の音声付きパワーポイント、抄録

視聴回数：24回

※採択時の所属です。

氏名	所属	論文名
飯嶋 友美	高崎健康福祉大学	帝王切開で出産した母親が出産体験を意味づけるプロセス
川崎 絵里香	京都先端科学大学	コロナ禍における医療系大学生のメンタルヘルス維持のためのポジティブ心理学的看護介入（PPI-N）の効果
熊倉 良太	長岡崇徳大学	血液透析患者の運動実施能力尺度の信頼性・妥当性の検証
安藤 冴子	甲南女子大学	成人期に精神症状を併発した小児期発症てんかん患者の就労に関する質的研究
金澤 悠喜	慶應義塾大学	尿意のない児に対する新たな採尿法と従来法の検査値の比較～看護師の業務改善を目指した新たな採尿技術の開発～
河野 杏奈	帝京平成大学	在日ネパール人女性の健康課題と支援ニーズに関する調査
志水 己幸	愛知医科大学	病院で働く看護職の多重課題遂行の現状と自律性との関連
中島 一成	大阪成蹊大学	臨床実践を想定した末梢静脈路確保時の最適な駆血圧負荷手技の検証と開発～超音波機器を活用した主要な末梢静脈血管の拡張状態変化に焦点を当てて～
中村 江衣	日本医療大学	在宅緩和ケアにおけるがん患者家族の well-being の分析と構造化
三輪 桂子	名古屋学芸大学	乳児の気質と母親のコピーングおよび育児ストレスとの関係に関する研究
渡邊 奈穂	東邦大学	看護組織における日本語版組織学習尺度の開発

②講演

テーマ：EBN リサーチエビデンスと実装研究

目的：「EBP・EBNによる研究成果をどう実装していくのか」という課題に対して、実装研究とは何か、問いの立て方、ステークホルダーアセスメント、データ収集など、実装研究にとって重要な視点を学ぶ。

日時：2025年9月13日（土）13時00分～15時10分

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

講師：片岡 弥恵子 氏（聖路加国際大学大学院）

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～14：40 講演

14：40～15：00 質疑応答

15：00～15：10 閉会挨拶

当日参加者：Zoom 参加 62 名

動画配信期間：2025年9月22日～12月22日

動画視聴回数：311 回

講演概要

片岡 弥恵子 氏（聖路加国際大学大学院）

本セミナーは、「EBP・EBNによる研究成果をどう実装していくのか」という課題に対し、実装研究の概念、問いの立て方、ステークホルダーアセスメント、データ収集など、実装研究において重要な視点を学び、理解を深めることを目的として開催された。

片岡氏は、実装研究の基礎的概念と意義について解説し、研究によって創出されたエビデンスが必ずしも現場で十分に活用されていない現状を指摘した。そして、この課題を解決するための手段として実装研究の重要性を示した。

EBN 実践の枠組みとして、エビデンスを「つくる」「つたえる」「つかう」に加え、「つづける（あるいはつなげる）」という視点を含めた四要素が提示された。この「つづける」段階は、エビデンスに基づく実践を現場に定着させ、継続可能な形で維持する過程であり、実装研究の中心的な対象であることが強調された。

また、EBN 実践の具体的なステップとして、①臨床上の疑問の明確化、②エビデンスの検索、③エビデンスの批判的吟味、④エビデンスの実践への適用、⑤結果の評価、という一連の過程が説明された。特に、臨床上の疑問を PICO（対象、介入、比較、アウトカム）の形式で構造化することの重要性が強調され、これにより効率的かつ適切な文献検索が可能になることが示された。



さらに、実装研究の枠組みとして、介入特性、外的セッティング、内的セッティング、個人特性、プロセスの5領域から構成されるCFIR（Consolidated Framework for Implementation Research）が紹介された。助産師の継続ケアモデルに関する研究事例を通じて、エビデンスがどのように統合され、推奨へと発展し、実践に定着していくのかが具体的に示された。

本講演は、エビデンスを創出し理解する段階にとどまらず、それを実践に定着させ、継続的な変革へとつなげるための実装研究の重要性を明確に示すものであった。

(3) 委員会

第1回研究活動委員会

日時：2025年9月29日（月）17時00分～18時30分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：亀井 智子、小松 万喜子、前川 幸子

議題：

- 1) 2026年度研究助成事業について
- 2) 審査のWeb化について

第2回研究活動委員会

日時：2026年2月6日（金）10時00分～11時20分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：亀井 智子、小松 万喜子、前川 幸子

議題：

- 1) 研究セミナーの振り返り
- 2) 2025年度事業活動報告について
- 3) 2026年度事業活動計画案について
- 4) 2026年研究助成事業について
- 5) 今後のスケジュールについて
- 6) 会報55号の執筆について

4. 今後の課題

- ①会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進する。
- ②会員校の教職員のニーズに沿ったセミナーの開催について検討し、研究セミナーを開催する。

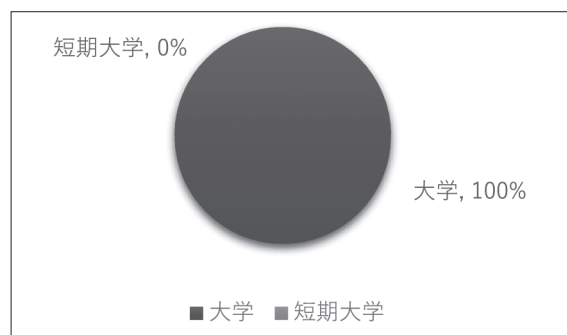
一般社団法人日本私立看護系大学協会 研究活動委員会
 2025年度研究セミナー「EBN リサーチエビデンスと実装研究」当日参加者アンケート結果
 当日参加者：62名、オンデマンド配信視聴者数：311名
 アンケート回答者：50名

Zoom を用いたライブ配信
 開催日：2025年9月13日（土）
 動画配信期間：2025年9月22日～12月22日

1. 参加者について

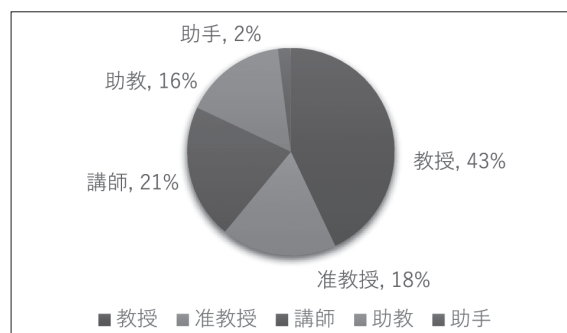
①所属

	人数	割合
大学	50人	100%
短期大学	0人	0%
合計	50人	100%



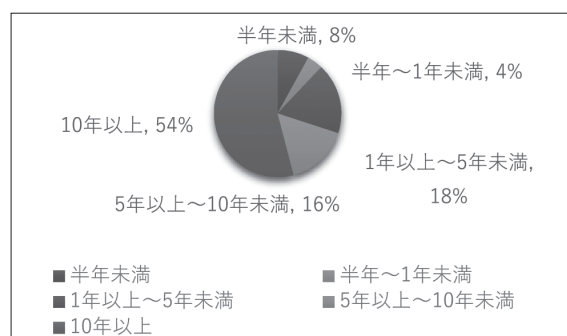
②職位

	人数	割合
教授	21人	43%
准教授	9人	18%
講師	10人	21%
助教	8人	16%
助手	1人	2%
合計	49人	100%



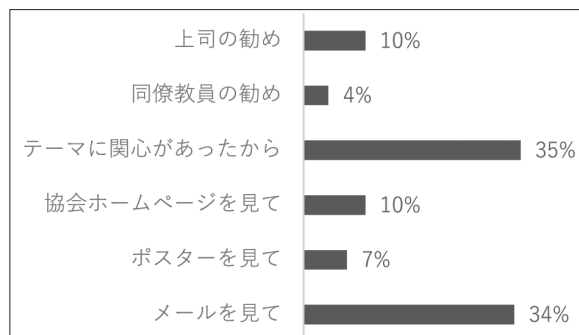
③在職期間

	人数	割合
半年未満	4人	8%
半年～1年未満	2人	4%
1年以上～5年未満	9人	18%
5年以上～10年未満	8人	16%
10年以上	27人	54%
合計	50人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	7人	10%
同僚教員の勧め	3人	4%
テーマに関心があったから	25人	35%
協会ホームページを見て	7人	10%
ポスターを見て	5人	7%
メールを見て	24人	34%
合計	71人	100%



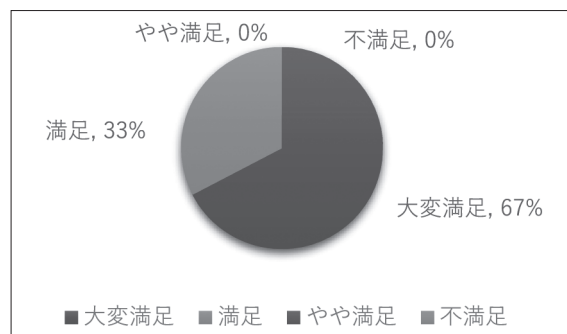
2. 講演について

「EBN リサーチエビデンスと実装研究」

講師：片岡 弥恵子 氏（聖路加国際大学大学院）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	33人	67%
満足	16人	33%
やや満足	0人	0%
不満足	0人	0%
合計	49人	100%



2) ご意見、感想など

- ・大変分かりやすかったです。
- ・資料や勉強会の紹介は、今日だけでなく継続して学べると感じた。
- ・実装のアウトカムは具体的にどのように測定していくか知りたかった。
- ・研究を進めていきたいと思っておりますが、なかなか気持ちが進んでいかない、そしてわからない分野であったので、具体的な内容で分かりやすかったです。
- ・実装研究について関心があり、今回の講義では具体的な方法を学ぶことができ、大変参考になりました。
- ・実装研究に興味を持った。
- ・大変興味深く参加でき、知見を得ることができました。満足しております。
- ・今進行中の研究のヒントをいただきました。
- ・実装研究の体系化された枠組みの存在を知ることができました。DNPではどのように研究に取り組むのかの実際を垣間見ることができました。
- ・研究成果の活用がシステムチックに行われるようになって来たことを実感しましたが、まだまだ現場による差も大きいと感じました。
- ・研究結果を臨床で生かされないことが多く残念に思っていたが、実装研究でそれを解決できるシステムが確立されていることを知り、大変参考になった。
- ・研究で得られたエビデンスが臨床で活用されない実際はいくつか見てきましたが、その時に実装を阻害するものが何だったのかを細かく考えることはありませんでした。今回の講演の内容や紹

介されたモデルの存在などは、同僚の職員にも伝えていきたいと思います。

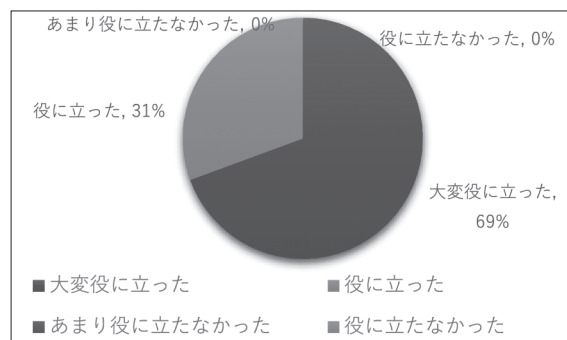
- ・最近、実装研究についての講義があれば参加するようにしていますが、本日の片岡先生の講義は、用語の意味をととても丁寧に説明していただけたため、より理解が深まりました。
- ・研究についての理解はできませんでしたが、助産師の力で異常分娩のリスクを下げられるという話はとても嬉しく思いました。
- ・CIFR や ERIC など、実装研究に役立つ情報を分かりやすくご説明頂きました。
- ・実装研究を行うまでのプロセスを簡潔に説明して下さっていましたが、実は、それまでのモデルやプログラムを作るのにも、数年かかりますし、そこから、実装を目指して、RCT を組み、レビューとなると、気が遠くなるなど思いました。でも、それが、本当の意味で実践の科学であるということだと感じました。
- ・近年よく耳にする実装研究の概要について理解できました。準備段階としてチーム（グループ）を作ることが難しいことで、まずは共同研究者を集めていくことがその第一歩なのかと感じました。
- ・実装研究の理解を深める講演だった。
- ・エビデンスあるケア介入を実際の現場に取り入れていく実装研究のプロセスやツールを知ることができました。臨床の方々と看護研究を行なっていますが、貴重なケア介入のエビデンスを取得できても、継続的な介入エビデンスまでとっていない現状があります。これからは、効果がみられたケア介入を継続して実装していけるように、阻害要因促進要因も含めて、臨床の研究者の皆様と協議して参りたいと思います。
- ・基礎看護技術において、原理、原則を重視し学生へ伝えていますが、現場との乖離、特に教科書との乖離を痛感しております。今回この講演を受講いたしまして、まずは、目の前の問題について考え、文献を検索することから始めたいと感じております。
- ・多くの研究があり、その中で活かしていくことの体系化があることが理解できました。どこまで共有して、活かしていけるのか、それには、エネルギーが必要と感じました。研究と臨床の隔たりなく、日本の医療や教育がともに発展していけることがこれからの日本の医療も支えていけると感じております。一人一人のつながりと実践の継続を少しずつでも進めていきたいと感じました。
- ・これまで質の看護教育に関する研究をしてきたので、内容を理解できるか不安でしたが、講演を拝聴して、いくつかの段階を経てエビデンスに基づいて実施した結果を重ねれば、教員・看護師・学生への本当に効果のある必要な教育介入の内容を具体的に示すことができることが理解できました。
また、エビデンス・プラクティスギャップと同様に、教育現場と臨床現場での教育内容のギャップもあり、双方の実践力をどのように維持・向上していくのか、看護学生への教育について考えさせられました。これを機に今後、研究内容を検討していきたいと思います。
- ・わかりやすかった。実装研究までのプロセスをつかむことができた。また実装への阻害要因が明確に示されていることに感動した。
- ・CFIR を丁寧に説明していただき勉強になりました。
- ・阻害要因・促進要因を明らかにし、様々な戦略を用いて実装することの重要性を益々感じました。
- ・オンデマンドで聴講しました。実装研究を計画したいと考えており、大変興味深く聴講致しました。今回の研修では新たに知ったことばかりで、動画を止めつつ理解してから次に進めて学習を進めました。世界的には実装研究に向けて体系化されていることが分かり、PDFダウンロードできる資料、先行研究を読んで具体的にどのように行うのか、まずは知見を深めたいと思いました。個人で考える実装戦略には限界があり、どのように展開・浸透させていくと良いか悩むことも多くありましたので、研修会内容を参考に研究を進めていきたいと思いました。
- ・実装研究の内容については少し難しかったので、もう少し時間をかけて学びたいです。

- ・RADISHの文献をご紹介していただき、ありがとうございました。勉強してみようと思いました。
- ・実装研究は、看護において、たいへん重要だと思いました。たくさん良い基礎研究があるにもかかわらず、実装されないのは、残念でなりません。研究能力だけでなく、研究の時間が確保できるかや、病院の中で決定権のある人間を動かすための別の能力も必要となるのではないかと感じました。
- ・実装研究という言葉は知らなかったのですが、個人的にイノベーション普及理論を枠組みとした研究をはじめていましたので、点と点が結びついたような感覚となり感激いたしました。
- ・実装研究を自身の研究でも取り入れようと考えていて、とても参考になりました。修士で推進活動への障壁と克服過程について研究しましたので、フレームワークを使って戦略を考えていけばいいのではと、光が見えた気がします。
- ・実装研究を行うプロセスや実施する中で活用できるフレームワークを具体例を交えてご紹介いただき、理解が深まりました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	34人	69%
役に立った	15人	31%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	49人	100%



2) ご意見、感想など

- ・教員の研究活動推進が大学全体のテーマとなっていますので、このような企画は大変ありがたく、継続を希望いたします。
- ・大変良かったです。
- ・タイムリーな企画と思いました。
- ・研究について
 - ・全教員が取り組みやすい研究に関する企画
 - ・研究科において質の高い研究指導につなげられる。
 - ・看護の力を証明していくために、必要な企画と思います。これからもこの方針で企画をしていただき、私たち看護師、看護教員の力を伸ばす企画をしていただければ有難いです。
 - ・実際の事例を具体的にもう少し知りたいと感じました。
 - ・昨年に引き続き参加させていただきました。1年間のなかでの自分自身の変化もあり、新たな視点で拝聴させていただくことができました。自身の研究方法や研究内容を振り返る機会になり、大変参考になりました。
 - ・看護研究の進め方の勉強になった。
 - ・私は遺伝看護学領域に所属しているのですが、このようなこれから普及していくであろう学問体系には、必須の研究デザインだと思いました。ご紹介いただいたサイトから情報をダウンロードしました。新たな研究の展開に活用していきたいと思います。
- ・研究、教育者にとってとても有用な企画だと思います。

4. 今後、本協会「研究活動委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・混合研究法
- ・実装研究、システマティックレビュー、メタアナリシス
- ・質的研究の方法、科研の基礎レベルの説明など
- ・質問調査票作成の基礎
- ・授業に関連した研究（実際、倫理審査の必要性など）
- ・実際の実施された実装研究の発表を聞いてみたい
- ・看護教育を行なう力量を伸ばすための企画
- ・効果測定のためのアウトカム設定について
- ・システマティックレビューの方法

②開催時期

- ・3月～8月（1）
- ・9月（3）
- ・土日（1）
- ・夏休み、冬休み、それらの前後など、大学の授業が無い期間（1）
- ・平日夜か週末（1）
- ・いつでも（1）

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（45）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（1）

④開催地

- ・大阪（1）

3. 国際交流委員会

1. 趣旨

- ①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及び援助に繋がるための方策の調査研究
- ②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 櫻井 しのぶ（順天堂大学）
池松 裕子（日本赤十字九州国際看護大学）
（委員）
中村 敦子（日本赤十字広島看護大学）
若林 律子（順天堂大学）

3. 2025 年度事業活動報告

(1) 研修会の開催

テーマ：「在日外国人や来日外国人への看護」

目的：在日外国人や来日外国人への看護において、言語や文化の違いから生じる困難を理解し、多文化に対応する知識を深めるとともに、看護師に求められる能力について学び、看護学生の国際的素養育成に必要なカリキュラムの工夫について示唆を得る。

内容：本研修会では、日本の医療現場における多文化共生の現状と課題について包括的に意見が交わされた。講演1では、医療通訳者が単なる翻訳を超えて異文化理解を担い、医療安全と信頼構築に寄与していることが紹介され、理論に基づいた教育の必要性が提言された。一方、講演2では、日本語中心の予約システムや複雑な手続き、診察時の意思疎通の困難さといった、外国人患者が直面する切実な障壁が紹介された。フリーディスカッションでは、過去10年でシステム全体の整備がなされたとは言い難い現状であることが確認され、今後、諸外国の公立通訳制度などの事例を参考にしつつ、多言語化や地道な対話を通じて患者中心の医療を支える体制を構築することの必要性が再認識された。

開催日時：2026年1月31日（土）13時00分～15時30分

開催方法：Zoom ウェビナーを用いたライブ配信、オンデマンド配信

講師：2名

順天堂大学国際教養部 前任准教授 大野 直子 氏

日本赤十字九州国際看護大学 准教授 Gakkula Mahender Kumar 氏

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～13：45 講演1「医療現場における通訳の役割—多文化共生社会を支える架け橋」
講師：大野直子氏（順天堂大学 国際教養学部 前任准教授）

13：45～13：55 質疑応答

- 13：55～14：40 講演2「在日外国人や来日外国人が日本の医療施設で直面する課題」
講師：Gakkula Mahender Kumar 氏（日本赤十字九州国際看護大学 准教授）
- 14：40～14：50 休憩
- 14：50～15：20 フリーディスカッション
- 15：20～15：30 閉会挨拶

研修会参加者数：39名

研修会動画配信期間：2026年2月6日～2026年5月6日

動画視聴人数：271名

講演概要

「医療現場における通訳の役割—多文化共生社会を支える架け橋」

大野 直子氏（順天堂大学 国際教養学部 任准教授）



講演1：医療における多文化と医療通訳者、異文化コミュニケーションの理論的枠組み、多文化共生社会を支える架け橋について解説いただいた。

日本の医療現場における多文化共生の進展と、それに伴う医療通訳者の多角的な役割について述べられた。現在、外国人患者の増加により、言語や文化の相違から生じる誤解や医療安全上のリスクが懸念されていることが説明された。医療通訳者は単なる言語の翻訳にとどまらず、異文化理解やヘルスコミュニケーションを担い、医療従事者と患者の間に立って正確な情報伝達と文化的配慮を行うことで、両者の信頼関係を構築する重要な役割を果たしていることが紹介された。一方で、通訳者の不足や制度整備の遅れ、教育と臨床の連携不足といった実務的な課題もあり、医療従事者と通訳者が互いに協力して補完的な関係を築くことが不可欠であり、具体的には、不安や不確実性を管理する「AUM理論」などの枠組みを活用したコミュニケーション技術の習得が推奨された。こうした実践的な教育やロールプレイを通じて、インフォームドコンセントの質を向上させ、患者中心のケアを実現することが、多文化共生社会における医療の安全と質を高めることにつながることを提言された。

講演後のQ & Aでは、日本の医療機関における医療通訳の利用については、地域によって差があることやクリニックなどで外国人が受診する場合の医療通訳利用について説明がされた。

医療通訳者になるための語学レベルやカリキュラムについて質問があり、大野氏より具体的に回答された。医療通訳者への道では、語学力だけではないことや、学修方法にはオンデマンド学習などもあり、働きながら学べることなどが説明された。また、医療通訳者の派遣についても具体的なサイト名が挙げられ、紹介された。

また、緊急で医療通訳が必要になった場合は、地域の国際交流窓口などに問合せをすることなどが情報提供された。

「在日外国人や来日外国人が日本の医療施設で直面する課題」

Gakkula Mahender Kumar 氏（日本赤十字九州国際看護大学 准教授）



講演 2：本講演は日本語のスライド資料を用いて英語で行われた。外国人患者が日本の医療システムを利用する際に直面する具体的かつ切実な障壁が紹介された。多くの就労外国人は地域の支援ネットワークが不十分であり、受診そのものに強いストレスを感じていることが説明された。特に予約システムが日本語中心であることや、電話予約に高度な日本語力を要することが、緊急時や発熱時の受診を困難にしていることなどが具体的例とともに紹介された。また、病院内での複雑な書類手続きや、診察時の専門用語による理解不足、症状を細部まで伝えられないことへの不安が、患者の不満や不信感を増大させていること、さらに、119 番通報などの緊急対応、複雑な医療費・保険制度、薬局でのやり取りなど、診察室以外のあらゆる場面で言語と文化の壁が立ちはだかっていることも紹介された。こうした現状は患者に心理的な孤立感を与えており、システムの機械的な対応による共感の欠如も指摘された。これらの課題を解決するためには、多言語対応の予約システムの整備や心理的ケアの充実、医療通訳者の支援体制の構築が急務であることが示唆された。あわせて、患者自身の自立を支援する教育や、より丁寧なコミュニケーションを強化することで、真に患者に寄り添った医療対応を目指す必要性が示唆された。

フリーディスカッション：大野氏と Gakkula 氏とともに Q & A 式でフリーディスカッションを行い、過去 10 年間における変化、現場での具体的な課題、そして国際的な支援体制の比較について話し合われた。

過去 10 年間で医療従事者個人のスキルは向上したが、システム全体には大きな進展が見られない一方で、体外受精やワクチン接種といった分野は外国人にとっても利用しやすく、日本の医療費が他国に比べて安価であることは、出産などを希望する外国人にとって大きなメリットとなっていることが明らかになった。

大野先生からは、現場の切実な状況に対し、厚生労働省が提供する多言語問診票や同意説明書の積極的な活用が推奨され、また、日本の「後払いシステム」が未収金問題や患者の不安を招いている点については、事前に費用の概算を提示することで、トラブルの解決と患者への安心感の提供を両立できる可能性があることが述べられた。

コミュニケーションにおいては、文化的な告知スタイルの違いが大きな課題となっていた。日本では最悪のシナリオを医師が伝えることが一般的だが、これが外国人患者に過度な衝撃を与える場合があり、かつての「良い嘘」を許容した文化から告知重視へと変わってきた日本の歴史的背景を踏まえ、こうした認識のギャップを誰がどのように埋めていくかを検討する必要性が示唆された。

海外との比較では、オーストラリアでの公費負担や、アメリカでの法律に基づく医療通訳の無料化といった事例が紹介された。これに対し、日本では 2017 年からようやく異文化コミュ

ニケーション教育が取り入れられた段階にあり、今後の対策として、行政による多言語の情報整備に加え、言葉が通じない場合に備えた書面による提示や、日頃からのコミュニケーションを通じて患者の反応を把握するといった、地道な信頼関係の構築が不可欠であることが示唆された。

(2) 新規に国際交流活動を行うための助成事業（100万円×4件）

＜スケジュール＞

応募期間：5月9日～6月9日

審査期間：6月12日～6月22日

事業開始：7月初旬以降

事業報告：2026年3月末日

＜審査会議＞2025年6月23日（月）9時00分から9時30分

出席者：（理事）池松裕子、櫻井しのぶ、（委員）中村敦子、若林律子（五十音順、敬称略）

審査結果：19件の応募があった。

選考は目的の妥当性（国際交流活動の意義）、看護学への貢献、先駆的・新規性、経費の妥当性、準備状況・計画実現の可能性、活動継続の可能性の6項目について行い、評価方法は各項目を【優れている：4点、どちらかと言えば優れている：3点、どちらかと言えば優れていない：2点、優れていない：1点】で点数化し、理事・委員が事前審査を行い、審査結果を共有し検討した。得点の高い優れた活動を助成対象として、以下の4校を採択した。

・創価大学

申請内容の新規性や具体性、実行性が高く、全員一致で高評価となった。助成額は840,000円

・昭和医科大学

複数の委員が高評価をつけたこと、活動計画が実現可能であることが採択の決め手となった。助成額は998,800円

・長岡崇徳大学

申請書の内容に問題がなく、全体の整合性も高いと評価された。助成額は999,560円

・人間環境大学（松山看護学部）

既に一定の国際交流実績があることから新規性に欠けるとの指摘もあった一方で、国際的な貢献という観点から評価され、最終的に採択となった。助成額は1,000,000円

(3) 委員会の開催

第1回国際交流委員会

日時：2025年6月23日（月）9時30分から9時50分

開催方法：Web会議

出席者：（理事）池松裕子、櫻井しのぶ、（委員）中村敦子、若林律子（五十音順、敬称略）

議題：

1) 研修会について

2) 2025年度委員について

第2回国際交流委員会

日時：2025年11月7日（金）9時30分から11時00分

開催方法：対面とZoomを用いたハイブリッド開催

出席者：（理事）池松 裕子、櫻井 しのぶ、（委員）若林律子（五十音順、敬称略）

議題：

- 1) 研修会について
- 2) 2026年度新規に国際交流活動を行うための助成事業について

第3回国際交流委員会

日時：2026年2月9日（金）9時30分から10時30分

開催方法：Web会議

出席者：（理事）池松 裕子、櫻井 しのぶ、（委員）若林律子、中村 敦子（五十音順、敬称略）

議題：

- 1) 研修会の振り返り
- 2) 2025年度事業活動の振り返り（事業活動報告）
- 3) 2026年度事業活動計画案について
- 4) 今後の理事会・社員総会 スケジュール
- 5) その他

4. 今後の課題

国際的に活躍できる看護人材の育成にむけた看護学教育のあり方について、情報交換と交流を推進し、グローバル社会のニーズに対応する国際看護教育のあり方及びカリキュラムの体系化について議論を深める。また、地域や医療現場だけではなく、大学においても多様な文化を背景に持つ教職員と相互理解を深め、共に働くために必要な人材育成の展望に向けた議論を進めていく。

令和7年度 一般社団法人 日本私立看護系大学協会 国際交流委員会企画 研修会
アンケート結果

テーマ：在日外国人や来日外国人への看護

開催日時：2026年1月31日（土）13：00～15：30

参加者：当日 Zoom 参加 39 名、オンデマンド配信視聴 271 名 計 310 名

回答者数：32 名

回答率：10%

【講演や企画について】

講演 1 大野直子先生のご講演内容は参考になりましたか。

n = 32



講演 1 大野直子先生のご講演についてのご意見・ご感想などを入力ください。（自由記載）

n = 14

《具体的な内容について理解できた》

- ・医療現場における不確実性と不安の構造についての提示がされ、理解が容易であった。教育活動や演習例の提示もあり、授業構成の参考にしたいと思いました。
- ・大変勉強になりました。
- ・具体的な内容を知ることができました。
- ・とても分かりやすい説明で、内容も現状をまとめて頂き、参考になりました。
- ・配布資料が欲しかったです。「スムーズな外国人診療のためのSTEP」に集約されていることが理解できました。

《医療通訳や協働の重要性に気づくことができた》

- ・とても貴重なご講演を拝聴し、大変有意義な時間となりました。私はこれまで保健師として、地域で暮らす外国人家庭の子育て支援や虐待予防のフォローに携わってまいりました。文化や慣習の違いから支援が難しい場面も多く、訪問時にはタブレットを用いたオンライン通訳を活用していましたが、行政予算の制約もあり、1回5分程度しか使用できず、深い話に踏み込むことが難しい状況に苦勞していました。本日のご講演を通して、通訳ボランティアの活用や外国人コミュニティとの連携など、多様な支援者との協働がいかに重要であるかを改めて実感いたしました。今後の実践に活かしていきたいと存じます。
- ・医療通訳の現状と医療機関への配置の必要性を痛切に感じております。現在は、外国語ができるスタッフを中心に外国人受け入れの救急病院では対応されているとお聞きしました。日本の医療でも特に検査の説明などは非常に難しく、受けられる外国人はとても不安だと感じました。
- ・通訳する人がいない病院が多いのでどうにかできないかと思えます。

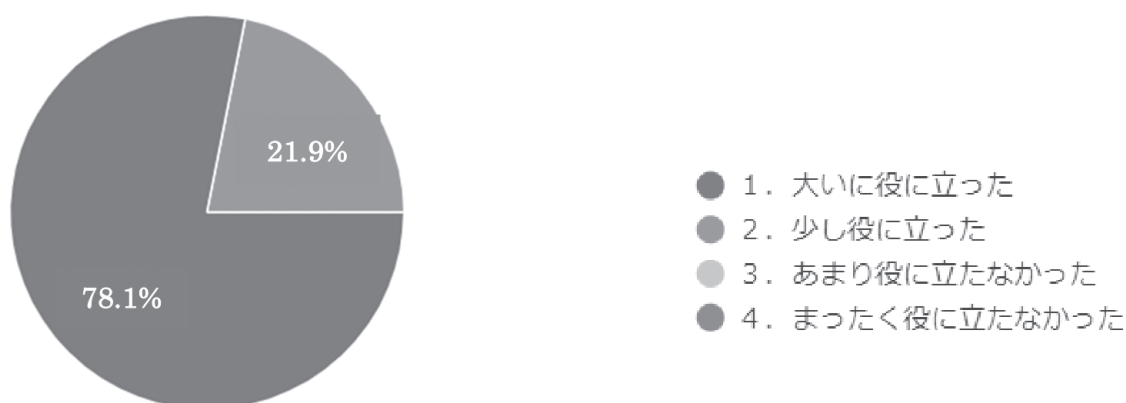
- ・通訳の方の役割などについて知ることが多く、協働の必要性がわかりました。
- ・これからは医療通訳者の教育にも熱を入れたいと思いました。(かくいう私は英語が不十分ですが。)
- ・外国人の方々とのコミュニケーションを橋渡しする役割
- ・都市部だけでなく、多くの病院(関連施設)に通訳の方が必要だと切に感じた。
- ・医療通訳を修士課程で養成されていることに驚きました。通訳において医療の知識が必要ですので教育内容もとてもいいなと感心いたしましたし、現場の看護師がそのような医療通訳者と連携をとって働けると、本当に異文化をもつ患者に寄り添う看護が出来るのではと感じ、嬉しく思いました。

《教育への活用について検討したい》

- ・地域看護学で在日外国人コミュニティとの関係があります。大変わかりやすく、具体的なお説明でした。演習例として挙げられました「健康観・病いの意味付けの比較」に関して興味を持っています。講義演習方法の検討をしていきたいと思っています。

講演2 Gakkula Mahender Kumar 先生のご講演内容は参考になりましたか。

n = 32



講演2 Gakkula Mahender Kumar 先生のご講演についてのご意見・ご感想などを入力ください。

(自由記載)

n = 14

《具体的な体験から医療における課題が明確になった》

- ・医療に対する課題が明確になったように思います。
- ・外国の方の状況を振り返ることができましたが、日本人にも重なる課題だと気付きました。
- ・外国人の立場からの思いなどを具体的に提示されており、思いを具体的に把握することができました。
- ・具体的な指摘をいただきました。自分の体験を思い出しました。
- ・先生のご経験を通したお話、心にしみました。
- ・外国人患者が困っている内容がよくわかりました。
- ・様々な場面で困惑されていることを具体的に知ることができました。
- ・実際に地域で暮らす外国人の方々が、病院の受診時にどのような場面で困難を抱えるのか、とてもわかりやすくご講演いただきました。現場の支援に直結する内容ばかりで、大変勉強になりました。
- ・病院診療時に感じることをズバリ表現してくれていた。医師不足・看護師不足に限らず、目の前の患者にきちんと向き合うことが大事だと改めて感じた。自分は英語が苦手な外国の方がいると離れてしまいがちであった。今後は院内で困った感じの方がいたら、声掛けして分かる人への橋

渡しができるようにしていきたい。

- ・論文等で、在留外国人が医療機関を受診された際の「壁」については知っていました。しかし、それ以上に具体的にそのような方々が感じられている困難について知ることができました。相手への関心や寄り添いの心を持って関わることを学生に伝えていきたいと思います。

《コミュニケーションのあり方を再考する機会となった》

- ・実際に外国人から見た日本の医療について事例を交えながらとても分かりやすくご講演いただきました。グローバル化が進む中、私たちも外国人とのコミュニケーションに努力を惜しまない姿勢が必要だと感じました。言語の壁は厚いという固定概念を払い、積極的にコミュニケーションを取りたいと思いました。
- ・日本人にとっても長い時間の待合は苦痛ですが、何が書いてあるか全くわからない状況とは大きな差があると思います。言葉の壁や孤独感などによる不安は、どうにも解消しにくいところもあると思います。案内だけでよいならこれからもっとAIが活用されていくのかもしれませんが。ボランティアでもメールでも双方にとって安全に、簡単に利用できることが重要だと思いました。

《研修会の運営について》

- ・資料をシェアしていただけることになったので安堵しています。メモを取りながらだつていけなかったのです。
- ・スライド以外の話が長く語られていたのですが、字幕がないため理解ができず残念でした。

シンポジウムはいかがでしたか

n = 32



大学の職務として、グローバルな人材育成を行う上で、今回の企画「在日外国人や来日外国人への看護」の企画はお役に立ちましたでしょうか。

n = 32



今回の企画「在日外国人や来日外国人への看護」についてのご意見・ご感想などを入力ください。
看護学教育への活用についてご意見を頂戴できれば幸いです。

n=15

《国際看護学などの授業や実習に活かしたい》

- ・担当科目の国際看護学に、本日の学びを生かしたいと考えています。とても役立つ企画でした。
- ・大学の外国語授業で、医療に関する英会話が学べたら良いと思いました。
- ・在日外国人、来日外国人が増加している現状に合致したテーマだったと思いました。今、現場で起きていること、どんなことに困難さを感じているのかなどを聞くことができとても有意義でした。
- ・どのような場面で外国の方が不安に思っているのか知ることができました。医療通訳について知ってはいましたが、どのように協働していくのかその実際を詳しく学ぶことができました。現在、急激に外国の方の受診が増えてきていますが、どのような思いを抱いているのか、今後、このような機会を通して学び、どんどん良くなっていくことを期待しています。
- ・グローバル化が当たり前の昨今、AI等を駆使してもっと容易に外国人とコミュニケーションが取れるようになる世界はすぐそこまで来ていると感じます。AIを活用して外国人が安心して日本の医療・看護を受けることができることを実践例などが聞けると嬉しいです。自分は外国語が堪能ではないのですが、看護教育の中にも当たり前に医療英語がカリキュラムとして取り入れる未来がそこまで来ているのではないかと感じております。
- ・国際看護論が必修科目でありますし、その中でも大事な内容です。田舎に住んでいるとまだまだ実感として外国人が増えてきたという印象が薄く、あまり危機感が感じられない中で、在留外国人を看護することや同僚として一緒に働く未来をイメージさせながら講義をしています。学生の関心をより高めていく上での示唆をいただけるとありがたいです。
- ・定期的に勉強することが必要なのだと思っております。

《対応できる看護師や教員の育成の必要性を感じた》

- ・看護学生への教育も大切ですが、今医療現場で困っているのが現状だと思います。医療者向けの教育企画やワークショップなど、今後もたくさん企画されるのを期待しています。
- ・医療現場でたびたび外国人対応を求められるが対応できる看護師はほぼ皆無である。看護基礎教育で医療英語を学んできている学生がいるが、現場では実践できていない。実践できるグローバルな人材育成は急務であるが、それに対応できる教員養成が必要であると考えます。
- ・教育活動の中で活用したいことは多岐にわたりますが、科目として独立させないで様々な科目の中で展開していくには、多くの教員の協力を必要とすることを実感しました。
- ・貴重なお話が聞けてとても勉強になりました。昔カナダに留学したとき文化が異なる人への配慮について教科書にも記載されていましたが、言葉が通じないということに対してはあまり触れられていなかった記憶があります（最近では違うかもしれません）。英語圏は英語がカタコトでも通じることが多いからだったかもしれません。日本は漢字など簡単ではないため、より複雑ですが、観光場所で中国語や韓国語のサインやパンフレットが見られるようになったことを考えると、看護者はどこに連絡すれば患者さんにとって必要なヘルプ（言葉、制度についての知識）が得られるのか、患者さんがどこに行けばいいのかということを知っておくことが重要だと感じました。医療通訳にはずっと関心がありました。今後何かできることがあればと改めて感じました。
- ・私が担当する臨地実習で学生が外国人を受け持つことはまだありませんが、その可能性も含めて準備していきたいと考えました。発達支援を受ける子どもが外国人の場合も多くみられ、私にとって興味深いテーマでした。

《在日外国人の健康支援の現状や宗教に対応した看護を学びたい》

- ・在日外国人の中でも特定技能実習のビザを保有の方が急増していると思います。その方々への健康支援の現状も知りたいです（職域、地域、病院）。

- ・日本は無宗教と言っても過言でなく、それが文化的な背景の大きな壁の一部と考えています。宗教ごとに異なる看護のポイントがあると思います。クローズアップいただくと助かります。また、臨床の看護師にも国際看護を学ぶ機会があれば、日本の医療界にとって国際看護の受け入れがスムーズになるのではないかと考えます。

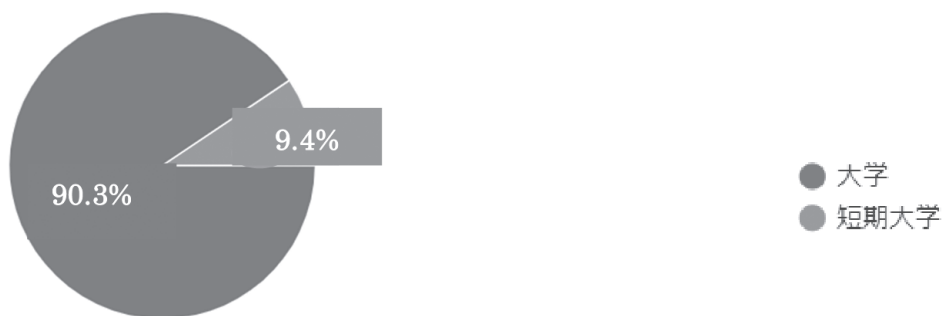
《運営について》

- ・Gakkula Mahender Kumar 先生が字幕にしても良く分からなかった。同時通訳と画面共有がスムーズになることを期待します。

【参加者ご自身について】

ご所属について、該当するものを選択ください。

n = 32



職位について、該当するものを選択ください。

n = 32



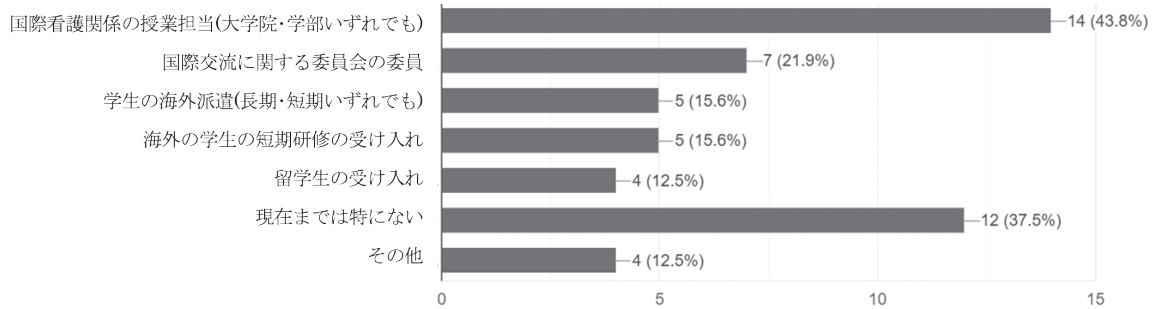
教員としての在職期間についてお聞かせください。

n = 32



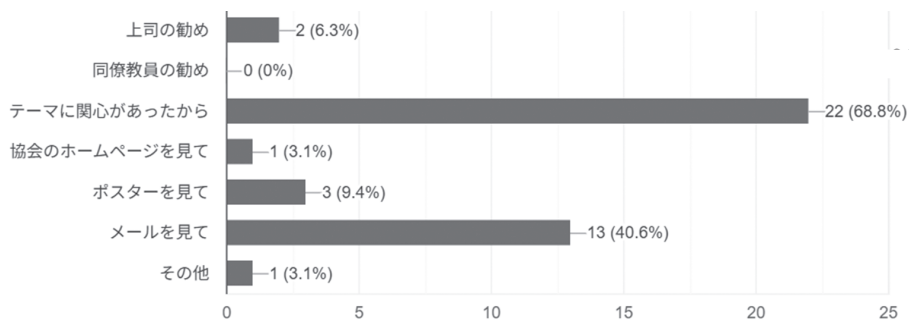
国際看護や国際交流に関する職務について、該当するものを選択ください。(複数回答可)

n = 32



今回の研修参加のきっかけは何ですか。該当するものを選択ください。(複数回答可)

n = 32



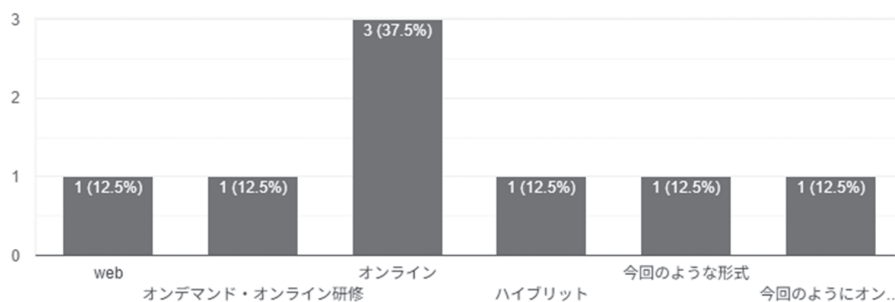
今後、日本私立看護系大学協会 国際交流委員会で行う事業について、希望するテーマ、開催方法、開催時期、開催場所など忌憚のないご意見をお願いします。

n = 8

- ・日本の医療施設で外国人への看護の具体的な実践例に関心があります。
- ・海外での外国人に対する看護など
- ・在日外国人、在留外国人、訪日外国人の看護 (宗教的背景)
- ・「在日外国人や来日外国人への看護」第2弾
- ・医療に関する宗教・文化の違いを学ぶ
- ・国際看護の教育に関すること (講義、模擬患者での演習、海外研修も含め)
- ・国際看護の授業の組み立て方
- ・学生の海外研修に関連する内容

〈開催方法〉

n = 8



〈開催時期〉

n=7

- ・ 土日が参加しやすいです。
- ・ 今回の時期と同じ
- ・ 2月以降
- ・ 2月頃
- ・ いつでも (3名)

〈開催場所〉

n=6

- ・ 今回のようにオンラインだと参加がしやすいです。
- ・ オンライン
- ・ オンラインであれば受講しやすいです
- ・ オンラインが便利でよいです
- ・ どこでもよい

〈その他のご意見〉

n=2

- ・ いつも貴重な講演テーマでご案内いただき感謝申し上げます。
- ・ 今回の研修会は導入だったように思いました。今後は入院患者さんの場合など、実際に学生が実習等で接する場面などがあっても良いと思いました。

【考察】

講演1・2ともに、「大いに役立った」「役立った」を合わせて100%の回答が得られた。自由記載では「理解が容易であった」「興味を持つことができた」といった意見がみられ、具体的な内容を理解し、医療通訳や協働の重要性を実感できる講演であったことが伺えた。また、外国人患者の視点から医療の課題を具体的に捉え、実践への応用が可能な講義であったと考える。シンポジウムでは、概ね「役立った」と評価が得られた一方で、「あまり役立たなかった」という回答も一部にみられた。自由記載では、資料の事前配布や日本語字幕の表示に関する要望が挙げられており、今後の運営上の改善点として示唆が得られた。看護教育への活用に関しては、国際看護学や医療英語などの講義や臨地実習に活かしたいという意見に加え、外国人対応が可能な看護師や教員の育成が必要であるなどの意見がみられた。これらのことから、本研修は、外国人医療の現状を踏まえ、教育・現場・支援体制を横断的に考えることができた研修であったと考える。今後希望する研修会のテーマについては「在日外国人の健康支援の現状や宗教に対応した看護を学びたい」「海外における外国人に対する看護について」などが挙げられた。

参加者の所属は概ね「大学」であり、職位は「講師、准教授」が約5割を占め、昨年と同様の構成であった。研修参加のきっかけは「テーマに関心があったから」が約7割を占めており、本研修テーマへの関心の高さがうかがえた。開催方法については、「対面」よりも「オンライン」の希望が多く、今後もオンライン形式での開催が望ましいと考えられた。

4. 大学運営・経営委員会

1. 趣旨

- ①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体又は民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析
- ②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の調査

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 永田 智子（慶應義塾大学）
- 岡田 みどり（川崎医療短期大学）
- 川本 利恵子（湘南医療大学）
- 竹田 恵子（川崎医療福祉大学）

3. 2025 年度事業活動報告

(1) 研修会

テーマ：効果的な学生募集と私立大学における教育の質保証

目的：本研修会では、私立看護系大学における効果的な学生募集の在り方や、教学マネジメントの視点を含めた教育の質保証の考え方や、最新の入試動向の理解を深めることを目的としています。各大学が自学の特性や強みを活かしながら、持続可能な運営と質の高い教育の両立を図っていくためのヒントを得る機会とすることを目指します。

日時：2025 年 10 月 20 日（月）13 時 30 分～16 時 45 分

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

講師：飯島 隆介 氏（株式会社リクルート リクルート進学総研 研究員）

押田 浩幸 氏（株式会社進研アド 営業本部 東京支社長）

菱沼 典子 氏（一般財団法人 日本看護学教育評価機構 代表理事）

プログラム：

13：30～13：40 開会挨拶

13：40～14：25 講演 1「高校生の大学選択行動の最新調査（2025 年調査）」

講師：飯島 隆介 氏（株式会社リクルート）

14：25～14：35 質疑応答

14：35～14：45 休憩

14：45～15：30 講演 2「私立看護系大学の募集環境変化と、学生募集と大学教育の好循環を生み出すサイクル」

講師：押田 浩幸 氏（株式会社進研アド）

15：30～15：40 質疑応答

15：40～16：25 講演 3「看護学専門分野別評価 -8 年目を迎えて見えてきた意義と課題—」

講師：菱沼 典子 氏（一般財団法人 日本看護学教育評価機構）

16：25～16：35 質疑応答

16：35～16：45 閉会挨拶

当日参加者：Zoom 参加 168 名

動画配信期間：2025 年 10 月 27 日～2026 年 1 月 27 日

動画視聴回数：479 回

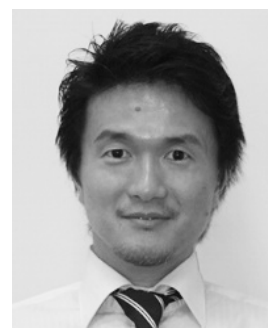
講演概要

永田智子委員長の閉会挨拶ののち、川本利恵子理事の司会のもと「効果的な学生募集と私立大学における教育の質保証」をテーマに、3名の講師による研修会が開催された。

高校生の大学選択行動の最新調査（2025年調査）

飯島 隆介

株式会社リクルートリクルート進学総研 研究員



まず飯島隆介氏（株式会社リクルート）より、「高校生の大学選択行動の最新調査（2025年調査）」と題してご講演いただいた。高校生や保護者、教員が求める情報の変化や進路選択の時期・行動パターン、学生満足度向上の戦略について、最新のデータに基づいてご説明いただいた。大学進学希望者は全体として増加傾向にあるものの、就職環境の改善に伴い、医療系資格の中でも看護系志願者は減少している。出願行動にも変化があり、第一志望校への合格者が増加し、平均出願校数は2.4校と少なく、地元志向が強まっている。また、進路選択の時期は高校2年夏～秋と早期化し、情報収集手段も進学情報誌やWebサイト、SNSなど多様化している。こうした状況を踏まえ、大学には早期からの効率的な情報提供や戦略的募集活動、オープンキャンパスの満足度向上といった進学支援の強化が求められることが示された。

私立看護系大学の募集環境変化と、学生募集と大学教育の好循環を生み出すサイクル

押田 浩幸

株式会社進研アド 営業本部 東京支社長



続いて押田浩幸氏（株式会社進研アド）からは、「私立看護系大学の募集環境変化と、学生募集と大学教育の好循環を生み出すサイクル」と題してご講演いただいた。高校生の進路選択に関する調査結果を基にお話しいただき、少子化の進展により看護系志願者は今後も減少が予測される中、高校生本人への情報発信だけでなく、高校側への働きかけが重要であると指摘された。大学は、教育内容や学修成果を可視化し、高校の進路指導者に対して特色や強みを端的に伝える広報戦略の工夫が不可欠である。また、教育の質と社会的価値を高めるためには、大学単独の取り組み

みにとどまらず、認証制度の活用や学生評価、地域のステークホルダーとの連携を通じて、継続的な教育改善や地域貢献を行うことが必要であると提言された。教育成果の効果的な発信により学生募集と教育の好循環が生まれ、持続可能な大学運営につながることを強調された。

看護学専門分野別評価—8年目を迎えて見えてきた意義と課題—

菱沼 典子

一般財団法人 日本看護学教育評価機構 代表理事



さらに菱沼典子氏（日本看護学教育評価機構）からは、「看護学専門分野別評価—8年目を迎えて見えてきた意義と課題—」と題するご講演が行われた。同機構により導入された分野別評価は、大学の教育力向上と質保証を目的とし、長所や課題を明示する仕組みである。自己評価や第三者評価を通じて教育の良点と課題を客観的に把握でき、教育改善や教員のモチベーション向上、大学の社会的信頼の強化に寄与している。今後の課題として、教育内容の一貫性確保、教員不足への対応、カリキュラムの見える化、地域貢献の強化、看護職の魅力発信などが挙げられた。地域住民や行政、看護協会と連携し、地域から信頼される大学となることが重要である。継続的な評価と改善を重ねることで、教育の質を高め、社会的信頼を確立し、学生志願者増加につなげることができると示された。

18歳人口の減少と看護系大学を取り巻く環境の変化により、学生募集は喫緊の課題となっている。大学には、効果的で戦略的な募集活動と魅力ある情報発信が求められる。今回の3講演を通じ、学生募集の現状と課題、教育の質保証、地域連携の重要性が再確認された。外部評価を活用した教育改善と大学内外に対しての説得力ある仕組みづくりにより、社会的信頼を高め、地域と連携した看護人材育成と少子高齢化社会に対応した持続可能な大学運営の推進が期待される。各講演後には質疑応答が行われ、参加者の関心や課題が共有された。

(2) 4年制大学の教育等に関する実態調査の実施と報告書の作成（JANPUとの合同）

実施期間：10月14日から2026年2月上旬

第1回合同会議

日時：2025年6月23日（月）9時30分～10時15分

開催：Zoomを用いたWeb会議

議題：

- 1) 入力マニュアルについて
- 2) 質疑応答集の整理
- 3) 今後のスケジュールについて

第2回合同会議

日時：2025年8月18日（月）14時00分～15時15分

開催：Zoomを用いたWeb会議

議題：

- 1) 質疑応答の整理状況の確認
- 2) 「2024年度看護系大学に関する調査」内容の変更について
- 3) 今後の実態調査スケジュールと分析の担当

第3回合同会議

日時：2026年2月18日（水）11時00分～11時40分

開催：Zoomを用いたWeb会議

議題：

- 1) 2024年度看護系大学に関する実態調査（2025年度実施）の集計について
- 2) 今後の検討事項
- 3) その他

(3) 短期大学の教育等に関する実態調査の実施と報告書の作成

実施期間：10月14日から12月8日

(4) 委員会の開催

第1回大学運営・経営委員会

日時：2025年8月8日（金）11時30分から12時20分

開催：Zoomを用いたWeb会議

出席者：岡田 みどり、川本 利恵子、竹田 恵子、永田 智子

議題：

- 1) 2025年度事業活動計画の確認
- 2) 教育等に関する実態調査の進捗状況について（JANPUとの合同実施）
- 3) 短期大学の教育等に関する実態調査の実施と報告書作成
- 4) 研修会（10月20日開催）の業務分担
- 5) 今後のスケジュール

第2回大学運営・経営委員会

日時：2026年2月18日（水）10時00分から10時45分、11時45分から12時10分

開催：Zoomを用いたWeb会議

出席者：岡田 みどり、川本 利恵子、竹田 恵子、永田 智子

議題：

- 1) 研修会の振り返り
- 2) 2025年度事業活動報告について

- 3) 2026 年度事業活動計画案について
- 4) 今後のスケジュールについて
- 5) 会報 55 号の執筆について

4. 今後の展望

- 1) 4 年制大学および短期大学の教育・危機管理等に関する実態調査結果から、4 年制大学および短期大学の運営・経営改善に関する方策を提案する。
- 2) 大学運営・経営に関する研修会を企画し、学校法人の経営戦略等についての情報を発信する。

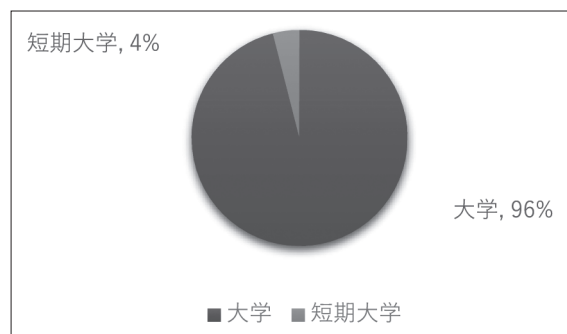
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学運営・経営委員会
「効果的な学生募集と私立大学における教育の質保証」アンケート結果
当日参加者：168名、動画視聴回数：479回
アンケート回答者：82名

Zoom を用いたライブ配信
開催日：2025年10月20日（月）
動画配信期間：10月27日～1月27日

1. 参加者について

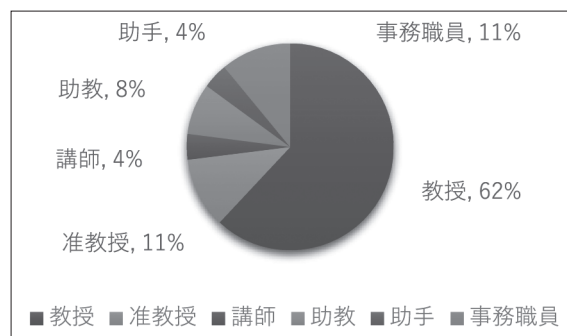
①所属

	人数	割合
大学	79人	96%
短期大学	3人	4%
合計	82人	100%



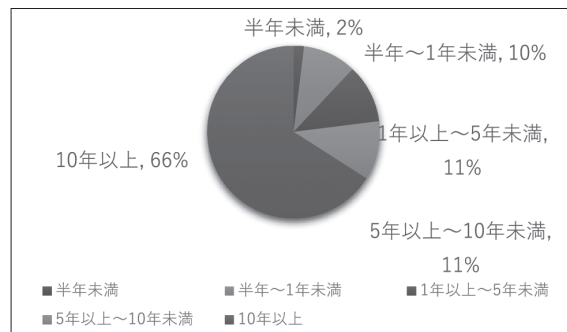
②職位

	人数	割合
教授	51人	62%
准教授	9人	11%
講師	3人	4%
助教	7人	8%
助手	3人	4%
事務職員	9人	11%
合計	82人	100%



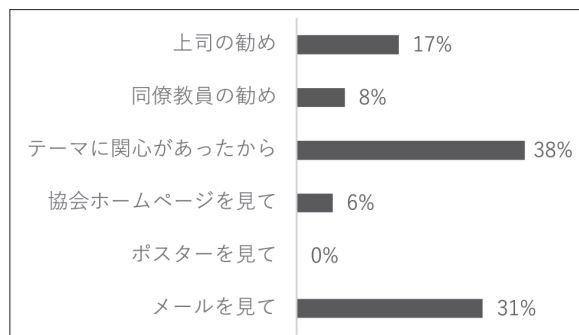
③在職期間

	人数	割合
半年未満	2人	2%
半年～1年未満	8人	10%
1年以上～5年未満	9人	11%
5年以上～10年未満	9人	11%
10年以上	54人	66%
合計	82人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	20人	17%
同僚教員の勧め	10人	8%
テーマに関心があったから	45人	38%
協会ホームページを見て	7人	6%
ポスターを見て	0人	0%
メールを見て	36人	31%
合計	118人	100%



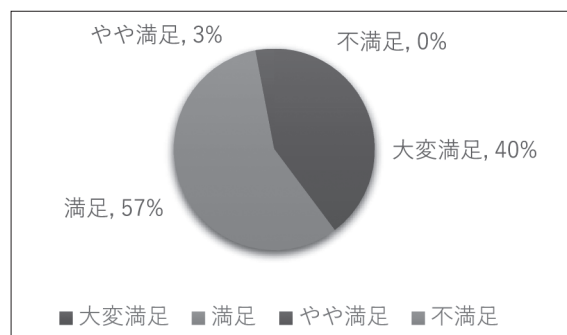
2. 講演について

①「高校生の大学選択行動の最新調査（2025年調査）」

講師：飯島 隆介 氏（株式会社リクルート）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	32人	40%
満足	46人	57%
やや満足	3人	3%
不満足	0人	0%
合計	81人	100%



2) ご意見、感想など

- ・オープンキャンパスを企画する際、広報活動をする際にどこを、何をターゲットにするかとても参考になった。
- ・日頃感じていた内容がデータとして出ていた。
- ・膨大なデータを示していただき、高校生の実態が理解できた。
- ・現状を知ることができました。
- ・高校生の大学選択行動の傾向や背景を理解できました。
- ・調査データに裏付けられた傾向はわかりやすかった。
- ・大体の傾向はわかりましたが、ポイントをつかむことの難しさを感じました。
- ・高校生の実態についてよくわかりました。
- ・数字で表していたので、わかりやすかった。
- ・回答の動向は参考になりましたが、過去のデータとは回答傾向が著しく違うものもあり、回答者の傾向が大きく異なるのではないかと思われ、比較が難しく感じました。
- ・高校生の選択傾向がわかった。
- ・現在オープンキャンパスにかかわる委員会に所属していることもあり、オープンキャンパスの在り方や情報の伝え方など、大変多くを考えさせられる内容でした。
- ・高校2年生の夏からオープンキャンパス等で丁寧に対応していく必要があると実感しました。
- ・看護系が多いと思っていたが、学部の増加に反するように全体的に減少してきている。進路選択が早まっている現状で、高校訪問より、中高一貫の学校の方が効果があると思う。
- ・高校所在エリア別の特徴をお示しいただき、特に出願状況の特徴や現在の高校生が、大学に何を

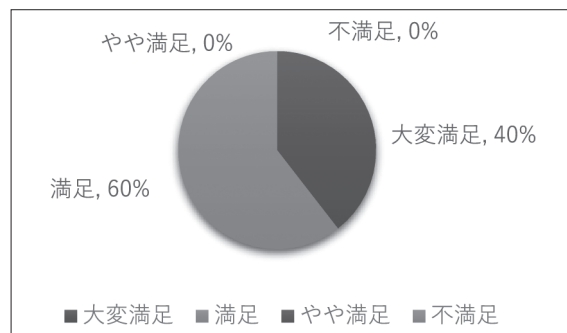
- 求めているのか（「将来のキャリアも含めて明示すること」など）沢山のヒントをいただきました。
- 看護専門学校が存在が根強く、看護学部（看護学科）の大学一本化への道のりは遠い。
- 膨大なデータを基に分かりやすい説明でしたが、看護系に特化して高校生の受験を促すための戦略などについて、より具体的な説明があるとよかったですと感じております。
- 最新データに基づく高校生の進路選択について知る機会となりました。興味深く聞かせていただきました。
- 日頃感じていたこと（高校生が志望する大学数が減ってきていること、大学進学志望校を決定するのは2年生の春から夏にかけてということ）が、調査結果でも示されたことが興味深かったです。
- 存続の危機があるため参考になりました。
- 人の生老病死、若者の可能性を考えた医療福祉を含む経済や教育のあり方について再考し、魅力ある医療を示すことが先であるような気もいたしました。
- 本学の動向が、全国の動向と合致していたのでその理由がわかり、今後の対策につなげていきたいと思いました。
- 高校生全体の傾向は把握できましたが、もう少し看護に特化したデータ・分析が欲しいです。
- 大学の偏差値や知名度だけでなく将来の進路学びのないようも重視して選択している。将来の不安であったり、就職を考慮した判断をしていると思った。
- 大変参考になりました。人口減少に伴い、これからの看護の担い手を確保するために、看護の現場である病院の看護管理者にも理解していただきたいと感じました。

② 「私立看護系大学の募集環境変化と、学生募集と大学教育の好循環を生み出すサイクル」

講師：押田 浩幸 氏（株式会社進研アド）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	32人	40%
満足	49人	60%
やや満足	0人	0%
不満足	0人	0%
合計	81人	100%



2) ご意見、感想など

- 高校教員や親に何を伝えるか、大学としてどんなメッセージを出すと選んでもらえるのか、参考になった。
- ステークホルダーへの訴求も踏まえた教育効果の評価の在り方について考えるきっかけとなった。
- 大学経営幹部や理事長の意向で、募集環境が決まります。教育の視点ではなく、経営の視点が重視されている大学の場合、教育の特色や質の向上には悩みが付きません
- 参考になった。
- データに基づいて説明した頂き、これからの学生募集の参考になると感じた。
- 非常にわかりやすいプレゼンテーションで、動向と課題を把握することができました。
- 学生確保のために何をなすべきか、考えるヒントをいただいた。

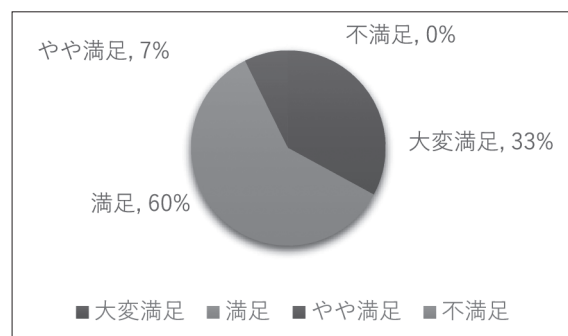
- ・看護系学部の学生募集に資する内容であり、今後に参考となった。
- ・高校生の志望の動向の変化が良く分かりました。参考にして高校訪問に活かしたいと思います。
- ・とても参考になりました。
- ・良好な循環を生み出すために「成長実感」についてプロセスを大事に高校生や高校生の教員に伝えることが重要で、新たな発見でした。
- ・参考にして取り組みたいと思いました。
- ・実現するのは難しいと感じた。
- ・もう少し看護に特化した内容が欲しかったです。
- ・講演1のお話とも共通する部分があり、こちらも大変勉強になりました。
- ・独自の教育の取り組みのプロセスを可視化することの重要性を実感しました。
- ・良き卒業生を輩出することで、高校の信頼を得ることができる。
- ・改めて、今後の18歳人口の推移（特に2034年度以降の急減期）を見据えて、看護系大学に進学する学生を維持するために、どのように看護学の魅力を発信していくとよいのか、考えさせられるご講演でした。
- ・私立・看護の推薦入試合格者の偏差値が低い統計結果は受験者を担当した実感と一致する。
- ・高校教員の意見等も踏まえ、学生に選んでもらえる大学になるためのご提案が具体的で分かりやすかったです。学生の成長の可視化について、他大学の例を挙げて説明して下さり、参考になりました。
- ・とても厳しい現状があると理解しました。自学の独自性・強みを明確に持つことの重要性を再認識しました。
- ・他大学の効果的な戦略など、もう少し具体的に知りたいかった。看護に特化したデータがもう少し欲しかった。
- ・大変参考になる講演でした。全部でなくても考え方や課題など資料を配布していただけると有難いです。
- ・学修成果（学生は何を身につけ、どのように成長したか）の伝え方を常に考えていますが、「金太郎飴」のような学修成果にならないようにしたいと考えております。
- ・3ポリの効果や卒後の活躍についても紹介できると良いと思いました。
- ・大学事務にも同様の内容を知ってほしいと思いました。
- ・学生が満足して成長していき、質も向上し最終的には学んでよかったと思えるサイクルだと思う。

③「看護学専門分野別評価—8年目を迎えて見えてきた意義と課題—」

講師：菱沼 典子 氏（一般財団法人日本看護学教育評価機構）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	27人	33%
満足	49人	60%
やや満足	6人	7%
不満足	0人	0%
合計	82人	100%



2) ご意見、感想など

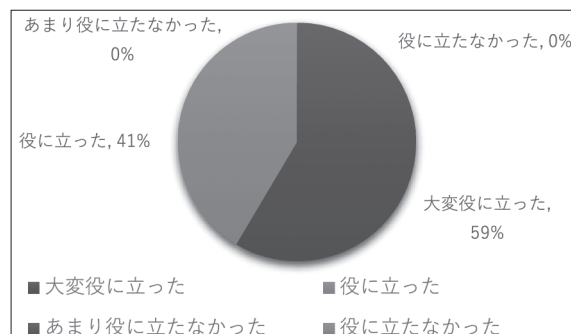
- ・どんな課題が挙げられているのかよくわかった。

- ・共通の課題もあり、改善のためにどこも努力されているのだと思いました。
- ・看護学教育評価機構の活動と、評価を通して見えてきた課題が参考になった。
- ・DP など、自身の大学との比較や看護大学の教員として、興味のある内容でした。
- ・菱沼先生の熱い思いが伝わりました。
- ・専門分野別評価を受審する意義がよくわかりました。
- ・JABNE の設置の経緯はほとんどの参加者は把握しているのではないかと評価担当者となった場合の作業量、負担はどのなのでしょうかと。
- ・認証の更新期間は何年でしょうか。2 回目以降の評価は自動的なのか、改めて申請する必要があるのかについての説明があるとよかったですと思います。
- ・分かりやすい説明で助かりました。
- ・看護学専門分野の評価の必要性について、よく理解できました。課題についても具体的に分かりやすく、私の大学ではどうなのか？と考えてながら聞かせて頂きました。
- ・よりよい教育をしていくために評価は必要。ご講演を参考に整備していきたい。
- ・投影資料がほしいです。
- ・看護学専門分野別評価については、正直に申し上げて他の評価機構様と混同していた部分もありましたが、改めて学ぶ機会となりました。大学はその機関内で完結しやすく外からの介入が少ない文化もありますので、客観的な評価の大切さを再確認する機会となりました。
- ・DP について再度確認していく必要性を感じました。
看護学としての意見が通る組織作りを行うことが、今後の看護の発展や看護大学の質保証に繋がっていくことだと再認識致しました。
- ・JABNE による分野別評価を受審した上で、菱沼先生のご講演を拝聴し、改めて看護学教育の質の担保と向上のためにも受審の重要性を感じました。国民から、地域住民から「●●大学があるから、ここはいいところよ」と言われる大学を目指していきたいと感じました。
- ・建学の精神をもとに DP の内容や大学のカリキュラムを見直し、特色を打ち出すことの必要性を改めて感じた。
- ・専門分野別評価のこれまでの経緯、評価の視点、今後に向けた課題についてなど、具体的にご説明いただき、理解が深まりました。
- ・自学の教育の見直しに大変役に立つ内容でした。
- ・評価員、受審を経験したので、改めて全体の現状を知ることができて参考になった。
- ・受信料が高額なので、弱小私学ではなかなか難しいですが、考えていかねばと思いました。
- ・看護学部看護学科として認証評価を受けること、それがスタンダードになるのだと目からうろこが落ちました。病院勤務を 23 年間していましたので、病院評価機構が重要なのは分かっていますし、その看護学版だということも理解しました。
講演を聞きながら評価機構のホームページを開き、会員校や評価結果などを見て自分は大学教員としていま一歩なのではないかという思いになった。ますます多忙で、多岐にわたり、そして地域にも貢献できる大学教員。そして大学教員を目指す若い人を育てる教員になれるか。ステキな諸先生方がこれまでされてきたことが、自分にとっては難しいことだという感想です。向上心が持てませんでした。申し訳なくすみません。
- ・教員差・領域差について同じく感じており、大学教育者を育てるベースが無いようにも感じてきております。
- ・なかなか、一言で大学の特徴（HP に載っていない）を伝えることは難しいが、大切なことだと思う。
- ・専門分野ごとに到達目標を見直す場となって、改善すべき教育の現場の問題に存在が大きいと思う。各大学の教育理念も踏まえ評価結果を行う時間が必要。
- ・宣伝みたいに聞こえた。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	48人	59%
役に立った	34人	41%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	82人	100%



2) ご意見、感想など

- ・オンラインで開催してもらい、大変受講しやすかったです。業務上、すべてオンラインで聴くことができなかつたため、オンデマンドが出たら勉強させていただきます。時間も含めてとてもバランスがよい内容でかつ、看護系に特化した内容で非常に具体的で実践的な内容でした。
- ・定期的に、このような研修があると、日々の忙しい業務の中に、立ち止まり考える時間があることは良いと考えます。
- ・大変参考になりました。
- ・今、入試やオープンキャンパスの実施しているので役に立ちました。
- ・教員が一丸となり進めていく問題であると思います。教授や管理者だけでなく、講師や助教にもわかりやすく伝える研修を企画してほしい。
- ・学生募集や大学教育の質は非常に重要なテーマで、考えを巡らせることができ、とても有意義で楽しい時間でした。ご講演をしてくださった皆様が与えてくださる情報も有益でした。看護系専門の予備校さんのお話も伺ってみたいなと感じました。新たなテーマとしては、近年は中途退学についても注目のトピックになっているかと思います。私立大学と国公立大学とで違いがあるのかについては不勉強ですが、中途退学予防についても、コロナ禍の影響が落ち着いてきている今、再度検討しても良いテーマかと思いました。
- ・様々な視点での示唆を頂きました。
- ・時期はよかった。時間は休憩なし13:30～15:30ぐらいがよい。(各テーマ35分・質疑応答5分)
- ・少子化の影響もあり受験者確保が難しくなっている状況で、講演を聴いて、自施設に取り入れていける内容については、少しずつ進めていきたいと思いました。特に、ステークホルダーへの広報について、工夫する必要があると感じております。
- ・リクルートさんの講演は、コンセプトが明確で整理されて大変参考になりました。
- ・今回も有意義な内容でとても参考になりました。
- ・長時間にわたる研修であったが、動画で視聴ができたので時間調整もしやすく良かった。
- ・現在助手ですが内容は少し難易度がありましたが、このような企画動画を観て教育の質向上は必要であり時代の変化していく中では改善が必要だが、職員の確保も問題だと感じた。
- ・とても興味深く、大学運営や学生への対応など実践に繋がる研修会だったと感じます。病院で看護管理の経験を経て大学教員になりましたが、看護大学の教員は、管理経験のない教員が多くを占めているため、教授や准教授である大学運営に携わる職位の方々が、組織論やマネジメントを理解していない現状を痛感することが多々あります。看護職は、「看護」はできても組織運営やマネジメントは学修していないので、医療の現場においては、看護管理者における組織管理を学修する体制が進められていることは周知のことと存じます。看護大学の質向上を図る上で、教授や准教授の組織運営につながる研修があると良いのではないかと感じました。

4. 今後、本協会「大学運営・経営委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・大学の自己点検評価について
- ・学納金以外で、教員の方でお金を稼ぐ方法としてはどのような方法があるのか。
- ・大学運営における看護系学部の運営の課題、組織化の課題（本日の菱沼先生のご講演にも触れられていましたが）、経営への参画の方法や実践例など
- ・大学教員の不足をどのように解決していけばよいのか。
- ・少子化の影響による課題について
- ・カリキュラム改正について
- ・中途退学対策について
- ・最近突然無断で休み、その後休学や退学する学生が増えている傾向にあります。どのような支援をいつの時期に行うことが必要なのか、ぜひ講演して頂けると参考になります。
- ・本日と同テーマもしくは実習指導体制と運営に関するテーマ（昨今、実習指導料に加えて、各実習施設の毎月の施設使用料が高騰し、財政をかなり圧迫しており、毎年度、赤字財政となっております。良い実習指導をしていただける施設（病院）でもあり、附属病院をもっていない大学としてはなかなか痛いところでもあります。教員も実習施設に実習時間張り付くような体制でないと受け入れてもらえない実習施設もあり、どのように各大学では工夫しているのか、今後の実習指導体制と運営についてヒントをいただくと嬉しい限りです。その際に厚生労働省のお考えなども伺いたいと思っています。）
- ・看護学実習、助産学実習、保健学実習の実習施設確保の問題について
- ・学生の学修成果や成長の可視化、広報戦略の成功例など、他大学の具体例を紹介してほしいと思います。
- ・看護大学における人材確保に関して
- ・看護学専門分野別評価で高評価の大学の教育の実践例の紹介
- ・効果的なオープンキャンパスの企画運営
- ・他大学の IR との連携についてや FD 活動について
- ・質の高い教育を提供するための教員の人材・人員の確保・定着に向けた取り組み
- ・少子化時代において看護大学の魅力の在り方
- ・臨床経験を教育にどう生かすか

②開催時期

- ・1月 (1)
- ・2月 (1)
- ・3月 (2)
- ・7月 (2)
- ・8月 (4)
- ・9月 (1)
- ・10月 (4)
- ・11月 (2)
- ・オンデマンド配信があればいつでもよい (2)
- ・前期中旬 (1)
- ・後期中旬 (1)
- ・授業のない期間 (1)
- ・土曜日 (1)

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（66）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（7）

④開催場所

- ・都内（1）

5. 渉外委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理
- ② 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施
- ③ 啓発活動のためのセミナーの実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 原 玲子（日本赤十字東北看護大学）
- 荒木 暁子（東邦大学）
- 鎌田 佳奈美（摂南大学）
- 洪 愛子（神戸女子大学）
- 櫻井 しのぶ（順天堂大学）

3. 2025 年度事業活動報告

渉外委員会では、看護教育に関する関連省庁や関係団体の動きに関する情報収集及び関連団体との連携活動を行いながら、本協会の発展に向けた取り組みを検討するための活動を行っている。

(1) パブリックコメントの実施

厚生労働省、文部科学省、自民党看護問題小委員会等への要望書提出を見据え、会員校からより広くご意見をいただくため、本協会ホームページに意見募集の窓口を設置し、メールにて周知した。

(2) 関係諸団体との連携

- ・ 6月4日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会 NP チーム会議に櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 6月6日：JABNE 定時評議員会に原玲子理事が出席
- ・ 6月6日：日本看護連盟通常総会に荒木暁子理事が出席
- ・ 6月13日：JANPU 高等教育行政委員会に洪愛子理事が出席
- ・ 7月2日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会 NP チーム会議に櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 10月24日：JANPU50 周年記念式典・特別講演・記念パーティに櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 1月16日：日本看護協会新年賀詞交歓会に荒木暁子理事が出席

(3) 教育学術新聞への掲載

日本私立大学協会が発行する教育学術新聞に「令和7年私学関係者暑中名刺交換」と「令和8年新年名刺交換」に掲載した。

(4) 委員会の開催

第1回渉外委員会

日時：2025年5月20日（火）11時00分～11時15分

開催方法：対面とWeb開催

議題：

- 1) 2024年度事業活動報告書および会計内訳
- 2) 2025年度事業活動計画書案および予算案

第2回渉外委員会

日時：2025年6月25日（水）11時00分～11時15分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：

- 1) 自民党看護問題小委員会への要望書について
2024年度要望書に記載してあるコロナ関連の記述などの情報を削除し、2025年度は重点項目を絞り、12月頃（年内）に提出を目指す方針で調整を進めることとした。

第3回渉外委員会

日時：2025年9月16日（火）11時00分～11時15分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：

- 1) 自民党看護問題小委員会への要望書について

第4回渉外委員会

日時：2026年2月24日（火）10時00分～11時30分

方法：対面

議題：

- 1) 2025年度事業活動報告について
- 2) 2026年度事業活動計画案について

4. 今後の課題

関係諸団体の活動状況の把握をさらに進め、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施に移す。

6. 広報委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行
- ② 会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
- ③ 本法人の活動の外部へのPRのためホームページの企画運営

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 鎌田 佳奈美（摂南大学）
- 宮城 由美子（福岡大学）

3. 2025年度事業活動報告

(1) 会報第53号・54号の発刊と第55号の企画

1) 会報第53号は2025年5月1日発刊

- ① 2024年度事業活動報告
- ② 会員校の特色ある取り組み
- ③ 2024年度国際学会発表助成論文要旨
- ④ 2025年度助成事業について
- ⑤ 理事会報告
- ⑥ 事務局からのお知らせ

2) 会報第54号は2025年11月1日に発刊

- ① 会長挨拶
- ② 新規会員校紹介
- ③ 社員総会付帯事業講演会
- ④ 2025年度研究助成事業の選考結果報告
- ⑤ 助成事業について
- ⑥ 役員一覧
- ⑦ 社員総会／理事会報告
- ⑧ 事務局からのお知らせ

3) 第55号の企画

2026年5月に発行する会報55号の記事構成を検討した。

(2) 2024年度年次報告書の発刊

2025年7月初旬に発刊した。

(3) 看護の魅力を社会、受験生、保護者などに伝えるPR活動

Instagram、TikTok、YouTube、Google ディスプレイネットワークの4媒体において、11月28日から12月27日までの1か月間、広告を配信した。昨年度（2024年度）と比較すると、表示回数1,331,664回（+115,709回）、クリック数14,958（+3,716回）、クリック率1.12%（+0.2）、視聴率7.71%（+4.88）となった。クリック率が多かったのはTikTok、視聴率が多かったのはYouTubeであった。昨年度は「好きなこと」編が1番多く視聴されていたが、今年度は「働きたい場所」編が1番多く視聴された。最後まで動画を見られたのは「将来の夢」編が1番多かった。近年、看護師向け転職サイトの広告露出が増加していることも背景にあり、看護師がどのような場所で働いているのかについて、学生の関心が高まっている可能性があると思われる。さらに、マナビジョンの職業情報アクセスランキングにおいて、動画広告配信の翌月に看護師のアクセス順位が上昇していることから、本事業との一定の関連性が示唆される。アクセス状況等の報告を受けて現状の特設ページの改修について検討し、看護の魅力を社会、受験生、保護者などに伝えるPR活動の今後の方策について検討した。

(4) ホームページ

年に4回ホームページの保守管理業者との会議を行い、ホームページの利用状況を定期的に分析し現状を把握し、出された課題に対する改善策を検討してホームページの改善に努めている。

トップページに会員校の特色ある取り組みを掲載するコンテンツを追加した。更に2024年度「先駆的な国際交流活動を行っている大学の視察調査等の助成事業」採択校の活動報告と2024年度「地区活動プロジェクト」採択校の活動報告を掲載した。

(5) 委員会の開催

第1回広報委員会

日時：5月15日（木）11時00分から12時00分

開催方法：Web会議

参加者：鎌田佳奈美、宮城由美子（五十音順、敬称略）

コーディア株式会社 中井氏

議題：

- 1) ホームページについて
 - ・会員校検索機能について
 - ・会員校の特色ある取り組み紹介コーナーについて
 - ・各助成事業のページについて
 - ・コーディア社より四半期報告（1～3月）
- 2) 2025年度事業活動計画、予算について
- 3) 会報第54号について

第2回広報委員会

日時：7月3日（木）13時00分から14時00分

開催方法：Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、宮城由美子（五十音順、敬称略）

進研アド 押田氏、小泉氏

議題：今年度の広告配信計画について

第3回広報委員会

日時：8月6日（水）10時30分から11時50分

開催方法：Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、宮城由美子（五十音順、敬称略）

コーディア株式会社 中井氏

議題：

- 1) ホームページについて
 - ・ホームページ改修について
 - ・コーディア社より四半期報告（4～6月）
 - ・助成事業ページの構成について
- 2) 看護の魅力発信について
- 3) 会報第54号について

第4回広報委員会

日時：11月12日（水）10時30分から11時30分

開催方法：Web 会議

参加者：鎌田佳奈美、宮城由美子（五十音順、敬称略）

コーディア株式会社 中井氏

議題：

- 1) ホームページについて
 - ・国際交流委員会および地区活動委員会の助成事業の活動報告について
 - ・コーディア社より四半期報告（7～9月）
- 2) 看護の魅力発信について
- 3) 会報への研究助成事業の論文要旨掲載について

第5回広報委員会

日時：2026年2月10日（火）10時30分から12時30分

開催方法：オンラインと対面開催

参加者：鎌田佳奈美、宮城由美子（五十音順、敬称略）

進研アド 押田氏、小泉氏、楯氏

コーディア株式会社 伊禮氏、北爪氏、中井氏

議題：

- 1) 看護の魅力発信について

- 2) ホームページについて
- 3) 会報第 55 号について
- 4) 2025 年度事業活動報告について
- 5) 2026 年度事業活動計画案について
- 6) 今後のスケジュールについて

4. 今後の課題

- 1) 協会全体の計画と方針を基に看護の魅力を社会に発信するための広報活動の検討を行う。
- 2) HP に関する定期的な業者との打ち合わせ会議を継続すると同時に、迅速かつ適切な情報配信を行うことで HP の充実を図る。
- 3) 会報発行（年 2 回）を継続すると同時に、さらなる紙面の充実を図り、電子化について継続検討する。

7. 将来構想検討委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の役割と機能の強化に向け、私立大学としての課題と看護学教育及び看護学研究の具体的な課題の明確化と今後の方向性について具体的方策の提案

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 荒木 暁子（東邦大学）
 洪 愛子（神戸女子大学）
 鎌田 佳奈美（摂南大学）
 櫻井 しのぶ（順天堂大学）
 原 玲子（日本赤十字東北看護大学）

3. 2025 年度事業活動報告

- (1) 各委員会および外部有識者等にヒアリング調査を行い、協会のあり方について検討する。

ヒアリング内容

- ・ 現在・今後の私立看護系大学の課題
- ・ 私立看護系大学協会に期待する使命や活動、など

ヒアリングに先立ち、以下の資料をご精読いただく

- ① 我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）

20250221-mxt_koutou02-000040400_2. pdf（保護）

- ② 2040 年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議

第 1 回検討会議における主な意見と今後の検討の方向性（案）（第 2 回資料）

20250424-mxt-sigakugy-000041754_08. pdf（保護）

2025 年 7 月 28 日に各委員長及び出席可能な理事へのヒアリングを行った。ヒアリングの結果から SWOT 分析を行い、戦略分析ドキュメントに基づき本協会の在り方について検討し各委員会にも展開した。また、2025 年 12 月に私立看護系大学の財務を含む基礎情報について、私立学校振興・共済事業団への情報提供依頼をし、その情報提供に基づき私立看護系大学の推移について集計を行った。更に 2026 年 2 月に追加の情報提供依頼をした。

- (2) 委員会の開催

第 1 回将来構想検討委員会

日時：2025 年 5 月 20 日（火）11 時 00 分～12 時 00 分

開催方法：対面と Web 開催

参加者：鎌田佳奈美、洪愛子、櫻井しのぶ、原玲子（Web 出席）（五十音順 敬称略）

議題：

- 1) 2024 年度事業活動報告書および会計内訳
- 2) 2025 年度事業活動計画および予算案

第2回将来構想検討委員会

日時：2025年6月25日（水）11時15分～11時25分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

参加者：荒木暁子、鎌田佳奈美、洪愛子、櫻井しのぶ、原玲子（Web出席）（五十音順 敬称略）

議題：

1) 生成AIを用いた議事録作成について

生成AIを用いた議事録作成システムの導入について、導入時の設定や制約を踏まえ、まずは事務局と荒木理事での試行利用を先行し、各理事へはこれらの情報を提供するとともに案内することとした。

第3回将来構想検討委員会

日時：2025年9月16日（火）11時15分～11時55分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

参加者：荒木暁子、鎌田佳奈美（Web出席）、櫻井しのぶ、原玲子（事務局出席）（五十音順 敬称略）

議題：

1) 戦略分析ドキュメント（理事・委員へのヒアリングを元に）に基づいた戦略オプションについて

第4回将来構想検討委員会

日時：2026年2月24日（火）10時00分～11時30分

開催方法：対面

参加者：荒木暁子、鎌田佳奈美、櫻井しのぶ、原玲子（五十音順 敬称略）

議題：

1) 2025年度事業活動報告について

2) 2026年度事業活動計画案について

3) 日本私立看護系大学協会戦略分析ドキュメントについて

4. 今後の課題

会員校は、看護の質向上や人材育成だけでなく、地域住民の健康支援を行う役割を担っており、新興感染症の流行や災害等の発生時には住民の健康危機に対応すべく尽力している。会員校の教育の質を維持向上し、更なる連携と協力を推進すべく求められる本協会の事業活動を検討する。

8. 地区活動委員会

1. 趣旨

- ①地区活動を通じたネットワークづくりにより、私立看護系大学の協働体制を進め、安定した看護学教育の推進
- ②私立看護系大学が共有する課題に協働して取り組む活動への助成事業の実施
- ③看護学の発展を担う人材を確保する活動のための助成事業の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○篠崎 恵美子（人間環境大学）

池田 恵美子（四国大学）

（委員）

坂 亮輔（人間環境大学）

渡部 光恵（四国大学）

3. 2025 年度事業活動報告

(1) 地区活動プロジェクト

会員校の地区における協働を進め、看護学教育の発展に寄与する新たな活動の在り方を探索することを目的とし、各地区の会員校の協働活動に助成を行う。

<スケジュール>

応募期間：5月9日～6月16日

審査期間：6月17日～6月27日

事業開始：7月初旬以降

事業報告：2026年3月末日

<審査会>

日時：2025年6月19日（木）10時00分～11時10分

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：（理事）池田恵美子、篠崎恵美子、（委員）坂本真理子、坂亮輔、渡部光恵

3件の応募があり、申請内容と予算を精査し妥当な助成額を決定し、3件を採択とした。中部地区からの応募については、利益相反の可能性を考慮し、中部地区の篠崎理事と坂委員を審査から除外し審査が行われた。また、同地区からは3年連続での応募であるため、同地区による継続申請への対応が議論された。規定上の制限はないため審査対象とすることとした。また、九州・沖縄地区から提出されたプロジェクトについては、令和8年度までを見据えた計画とされていたが、令和7年度のみ単年度計画に修正するよう求めることとした。また、複数の大学が共同で実施する活動であることが明確に伝わるよう、申請書の表現を見直す必要があるとされた。さらに、パソコン購入に関しては、用途が汎用的であるため、予算の再検討が求められた。以上の点を踏まえ、プロジェクトは「共同で推進する単年度の活動」として内容を修正し、再提出を依頼することとなった。審査についてはメールによる継続審議とした。再提出さ

れた申請書を確認し、学生のメンタルヘルスは各大学に共通する重要な課題であり、共同実施を通じて大学間のネットワークを強化する点に意義があると評価され採択となった。

○北海道・東北地区（東北文化学園大学、岩手保健医療大学）

「共に考える医療倫理～B型肝炎控訴原告団と弁護団の声を聞く～」

助成額は 950,000 円

○中部地区（豊橋創造大学、人間環境大学）

「看護の魅力発信！中学生対象 訪問型看護体験」

助成額は 1,354,774 円

○九州・沖縄地区（九州看護福祉大学、帝京大学 福岡医療技術学部）

「保健医療福祉系大学のメンタルヘルス不調休学者に対する復学支援プログラムの開発に向けた活動」

助成額は 534,510 円

<これまでの振り返り>

地区活動プロジェクトは、特に若手教員による協働的な活動を促進する点が高く評価された。また、これまでの活動実績を踏まえた、他地区への展開も期待される。継続的な申請も制度上は禁止されておらず、継続申請にはそれぞれに意義があると考えられる。

(2) 地区会議の開催

日時：2025年9月8日（月）11時00分から14時30分

方法：対面とZoomを用いたハイブリッド開催

場所：徳島グランヴィリオホテル2階 福寿（徳島県徳島市万代町3-5-1）

四国大学が企画を担当した。日本私立看護系大学協会四国地区の会員校5校が集い、「地元で学ぶ、地元で活躍する：看護教育を通じた地域の絆」をテーマに、地元学生の流出防止や大学規模の適正化について情報共有・議論し、実習課題、コンピテンシー評価、地域医療連携・就職支援など様々な課題について話し合った。

(3) 委員会の開催

第1回地区活動委員会

日時：2025年6月19日（木）10時00分～11時10分

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：（理事）池田恵美子、篠崎恵美子、（委員）坂本真理子、坂亮輔、渡部光恵

議題：

1) 地区活動プロジェクト助成審査

第2回地区活動委員会

日時：2025年11月7日（金）17時00分～18時00分

方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）池田恵美子、篠崎恵美子、（委員）坂亮輔、渡部光恵

議題：

- 1) 2026 年度「地区活動プロジェクト」助成について
- 2) 愛知県地区活動プロジェクト VR 動画の利用申し込みについて

第 3 回地区活動委員会

日時：2026 年 2 月 4 日（水）16 時 30 分～17 時 30 分

方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）池田恵美子、篠崎恵美子、（委員）坂亮輔、渡部光恵

議題：

- 1) 2025 年度事業活動の振り返り
- 2) 2026 年度事業活動計画案について
- 3) 今後の理事会・社員総会スケジュール
- 4) 会報 55 号の執筆について
- 5) その他

4. 今後の課題

活動の透明性や会員校の参加意欲の向上につなげるため、地区活動プロジェクトの成果を全国的に共有できる情報発信の仕組みについて検討する。また、将来的に複数の地区が連携した活動を見据えた広域連携の推進を検討する。